

# 2016年3月期第2四半期 決算説明会資料



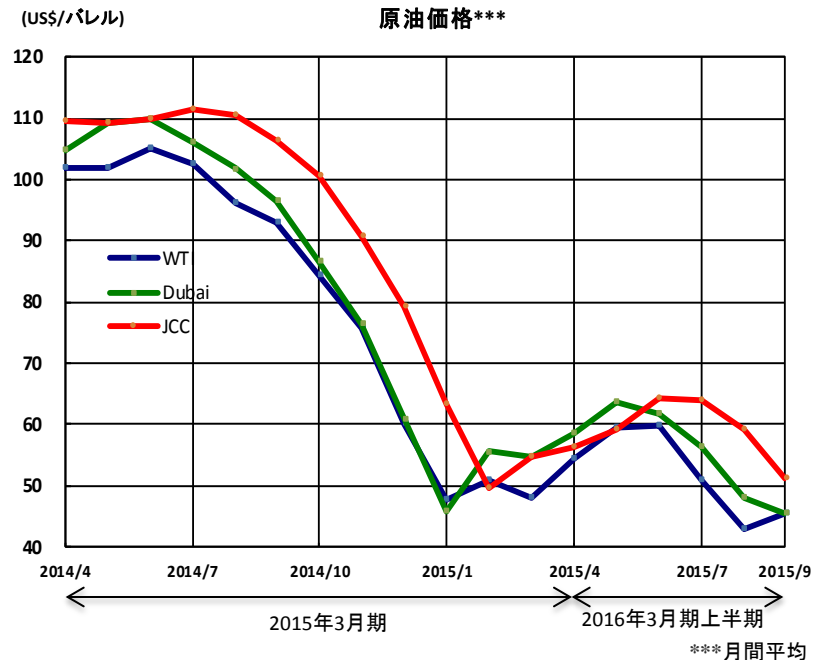
**mitsui & co.**

2015年11月9日  
三井物産株式会社

(注) 本資料にて開示されているデータや将来予測は、本資料の発表日現在の判断や入手している情報に基づくもので、種々の要因により変化することがあり、これらの目標や予想の達成、及び将来の業績を保証するものではありません。また、これらの情報が、今後予告なしに変更されることがあります。従いまして、本情報及び資料の利用は、他の方法により入手された情報とも照合確認し、利用者の判断によって行なって下さいますようお願いいたします。本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。

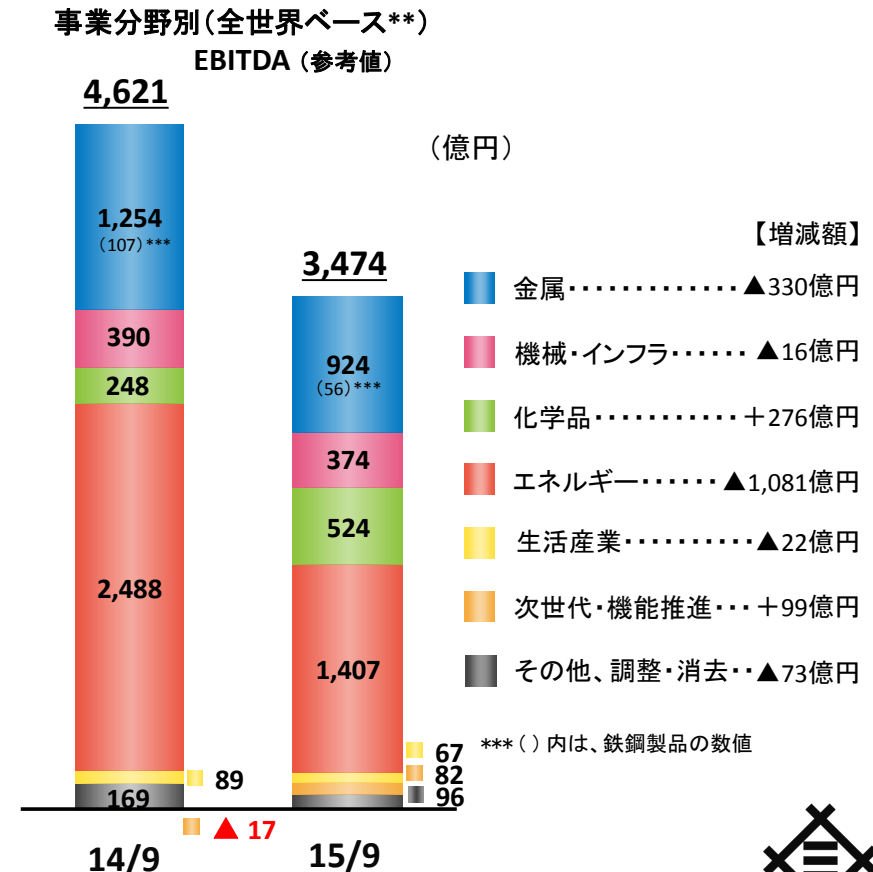
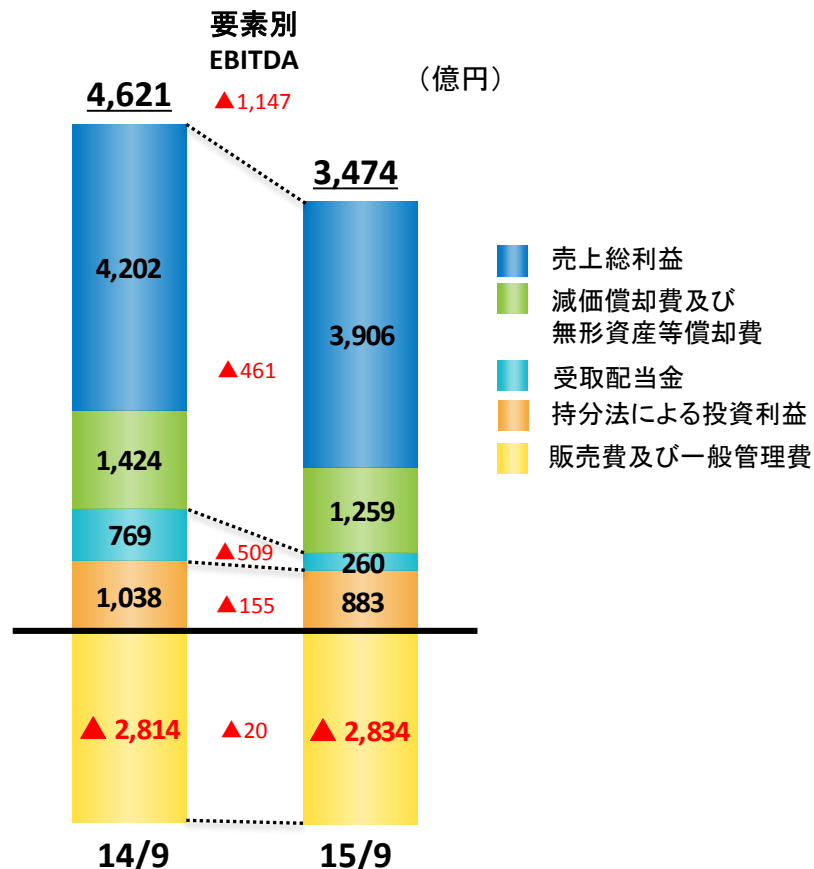
## 2016年3月期上半期 経営環境

- ◆ 世界経済：米国が回復を主導する構図に変化ないが、予想を超える中国経済の減速を背景に緩慢な成長に留まる
  - 米国：底堅い雇用や住宅市場の緩やかな回復など、良好なファンダメンタルズに支えられ景気拡大が継続
  - 日本：雇用・所得環境が良好な一方で、中国の需要鈍化を背景とした輸出の弱い動きや、個人消費の低調推移に伴い停滞
  - 欧州：ギリシャ問題の一方で、量的緩和策を背景にユーロ安・原油安の恩恵を受ける形で、緩やかに持ち直し
  - 中国：地方政府の債務問題や過剰設備の調整、株価下落を背景とした個人消費の伸び悩みの他、腐敗撲滅運動の影響で地方政府の公共事業への慎重な姿勢も加わり、減速が継続
  - 他新興国：中国経済との関係、資源輸出への依存度、対外資金への依存度、構造改革の進捗に応じ、各国の経済状況に差が発生
- ◆ 鉄鉱石価格\*は、中国経済の鈍化を背景に、概ね50-60米ドル/トンのレンジで推移 \* Fe 62% CFR North China
- ◆ 原油価格は、緩慢な需要の伸びを背景に上値は重く、50米ドル/バレルを挟んだレベルで推移



## 2016年3月期上半期 経営成績

- ◆ EBITDA\* 3,474億円：前年同期比 ▲1,147億円（期首予想6,600億円に対する進捗率 53%）
  - ・ 売上総利益（減価償却費足し戻し後）：米メチオニン事業（Novus）の好調等による化学品の増益があったものの鉄鉱石、原油・ガス価格の下落の影響が大きく、461億円の減益
  - ・ 受取配当金：LNGプロジェクトからの配当減を主因に、509億円の減少
  - ・ <事業分野別（全世界ベース）> 金属＋エネルギー 2,331億円：同▲1,411億円  
 その他 1,143億円：同 +264億円（主に化学品＋276億円）



\* 売上総利益＋販売費及び一般管理費＋受取配当金＋持分法による投資利益＋減価償却費及び無形資産等償却費四捨五入により合計が合わない箇所があります。

COPYRIGHT © MITSUI & CO., LTD. ALL RIGHTS RESERVED.

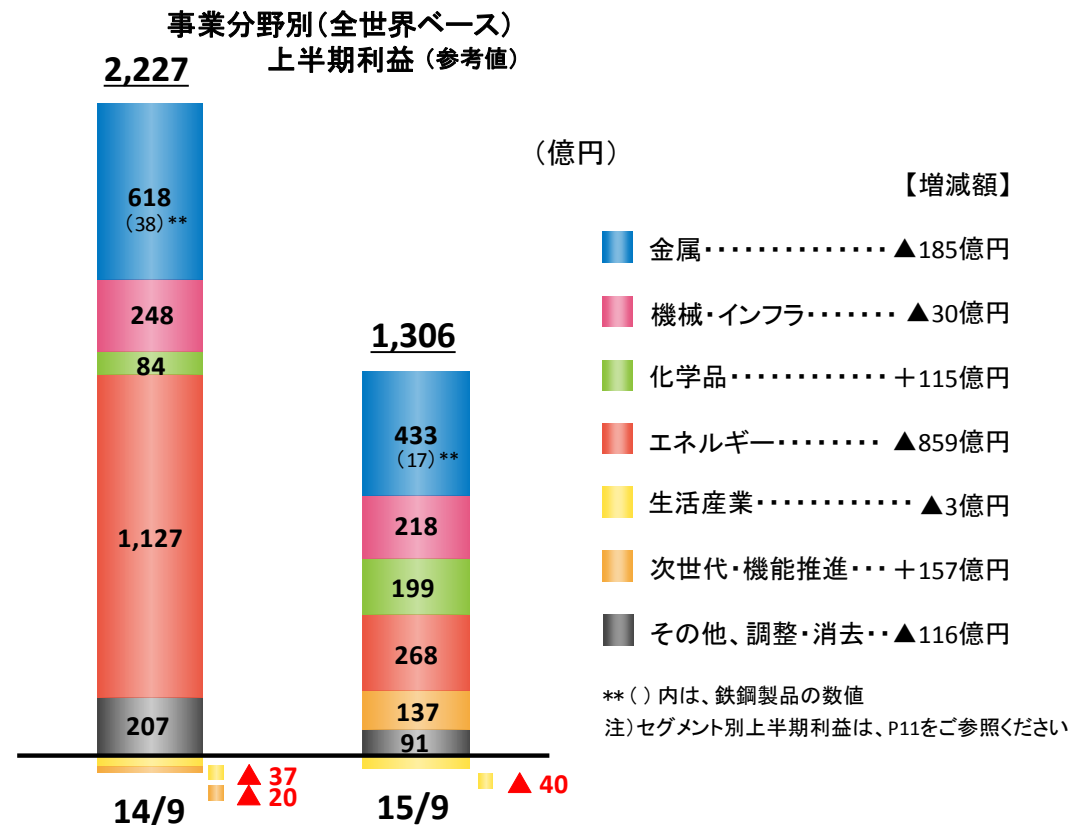
\*\* 海外セグメント業績を事業分野別に組替え算出した全世界ベースでの参考データ

## 2016年3月期上半期 経営成績

◆ 上半期利益\* 1,306億円：前年同期比 ▲921億円（期首予想2,400億円に対する進捗率54%）

◆ 主な事業分野の前年同期比増減

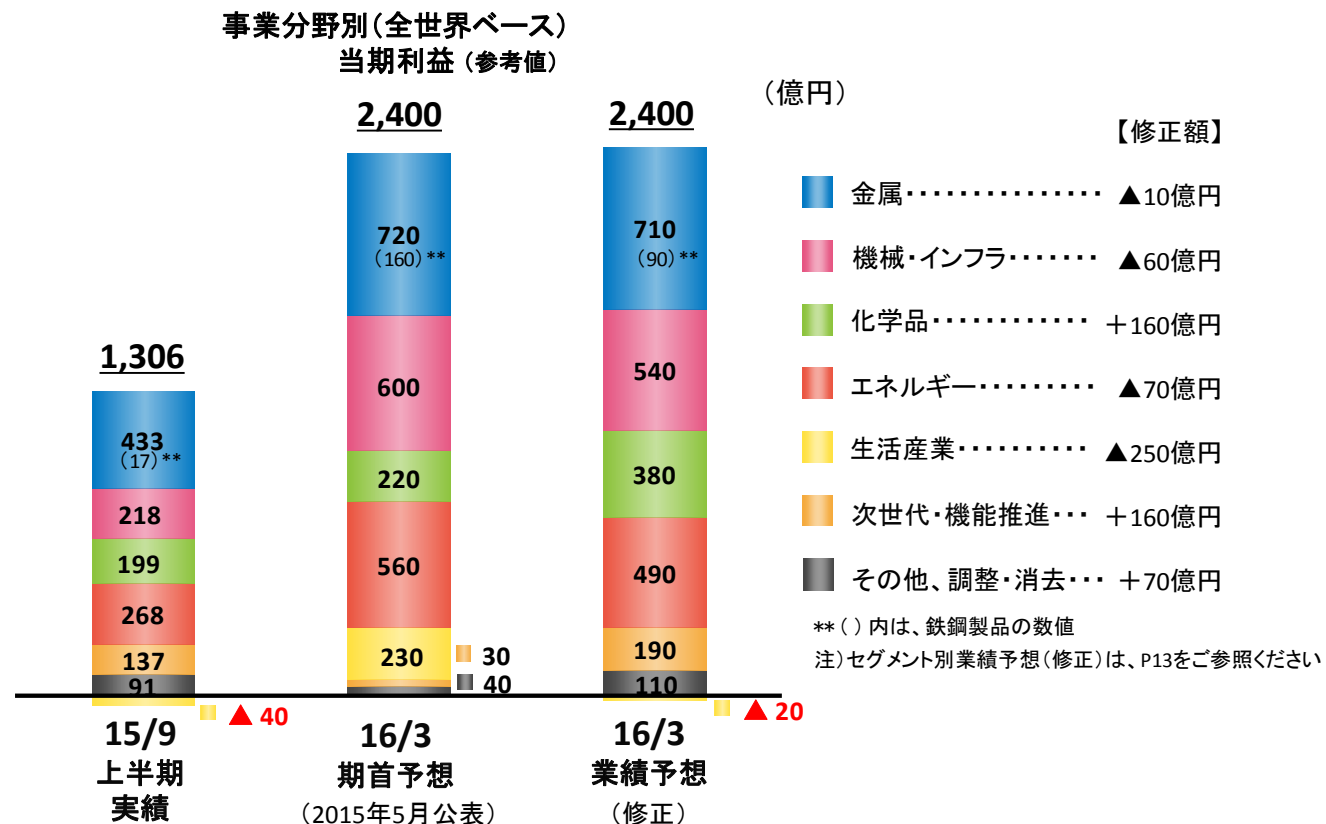
- エネルギー（上半期利益268億円）： ▲859億円（コスト削減の一方、価格下落）
- 金属（同433億円）： ▲185億円（コスト削減の一方、価格下落）
- 次世代・機能推進（同137億円）： +157億円（Hutchison China MediTechの公正価値評価益）
- 化学品（同199億円）： +115億円（Novusの好調）



\* 本資料では第2四半期累計の「四半期利益(親会社の所有者に帰属)」を「上半期利益」と表記しています。

## 2016年3月期 業績予想(修正)

- ◆ EBITDA6,600億円/当期利益\*2,400億円(期首予想と同じ)
- ◆ 主な事業分野別当期利益予想の修正額
  - ・ 化学品 : +160億円 Novus
  - ・ 次世代・機能推進 : +160億円 公正価値評価益(FVTPL)
  - ・ 生活産業 : ▲250億円 Multigrain
  - ・ エネルギー : ▲70億円 原油・ガス価格



\* 本資料では当連結会計年度の「当期利益(親会社の所有者に帰属)」を「当期利益」と表記しています。

## 2016年3月期上半期 キャッシュ・フロー アロケーション

- ◆ 基礎営業キャッシュ・フローは、原油・ガス価格や鉄鉱石価格の下落を主因に減少したものの、全体としては約2,700億円の獲得となり、堅調なキャッシュ創出力を維持した。
- ◆ 資産リサイクルを着実に実行し、約1,000億円を獲得。基礎営業キャッシュ・フローと合わせた資金獲得は約3,700億円
- ◆ 投融資は、既存事業 + パイプライン案件を中心に約2,400億円を実行

<実績概数>

(単位：億円)

主要セグメント・案件

基礎営業 キャッシュ・フロー	+2,700	エネルギー：+1,120(前年同期比▲990)、金属資源：+720(同▲140) 機械・インフラ：+350(同▲50)、海外：+320(同+150)
資産リサイクル	+1,000	FPSO貸付金回収、国内不動産、コカ・コーライーストジャパン株式
投融資合計	▲2,400	既存事業+パイプライン案件 ▲1,650      新規事業 ▲750
(内訳)		
鉄鋼製品	▲150	風力発電用タワー製造
金属資源	▲250	豪州鉄鉱石港湾・インフラ拡張
機械・インフラ	▲250	ブラジル旅客鉄道事業
化学品	▲150	米メタノール製造
エネルギー	▲950	タイ沖事業開発、米シェールオイル・ガス開発
生活産業	▲200	国内プロイラー事業の設備改修、中国給食事業、英国教育関連事業
次世代・機能推進	▲100	アフリカ高速モバイルデータ通信
海外	▲350	米タンクターミナル拡張、豪州風力発電

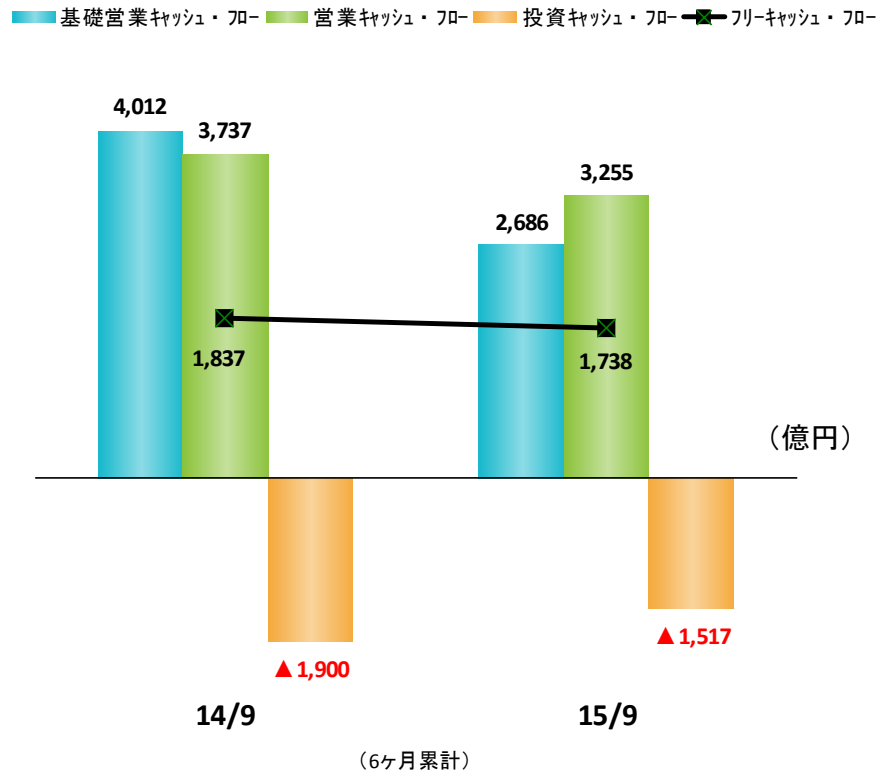
青字は、新たに取り組みを開始した投資案件。黒字は第1四半期以前より継続して投資を実行している案件。



# キャッシュ・フロー、バランスシート

## キャッシュ・フロー

- ◆ 基礎営業キャッシュ・フロー\*は2,686億円(前年同期比▲1,326億円)
- ◆ フリーキャッシュ・フローは1,738億円の黒字(同▲99億円)



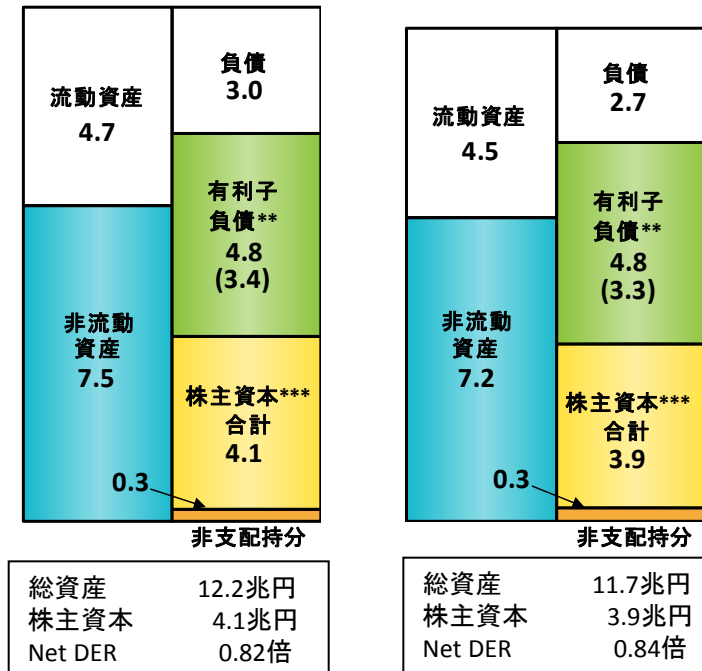
\*営業活動に係るCF-運転資本の増減に係るCF

## バランスシート

15/3

15/9

(兆円)



<株主資本の主な増減要因(2015年3月末比▲1,932億円)>

- ・ 四半期利益の積み上がり : +1,306億円
- ・ 外貨換算調整勘定 : ▲1,829億円
- ・ FVTOCIの金融資産 : ▲982億円
- ・ 配当金の支払 : ▲574億円
- ・ その他 : +147億円

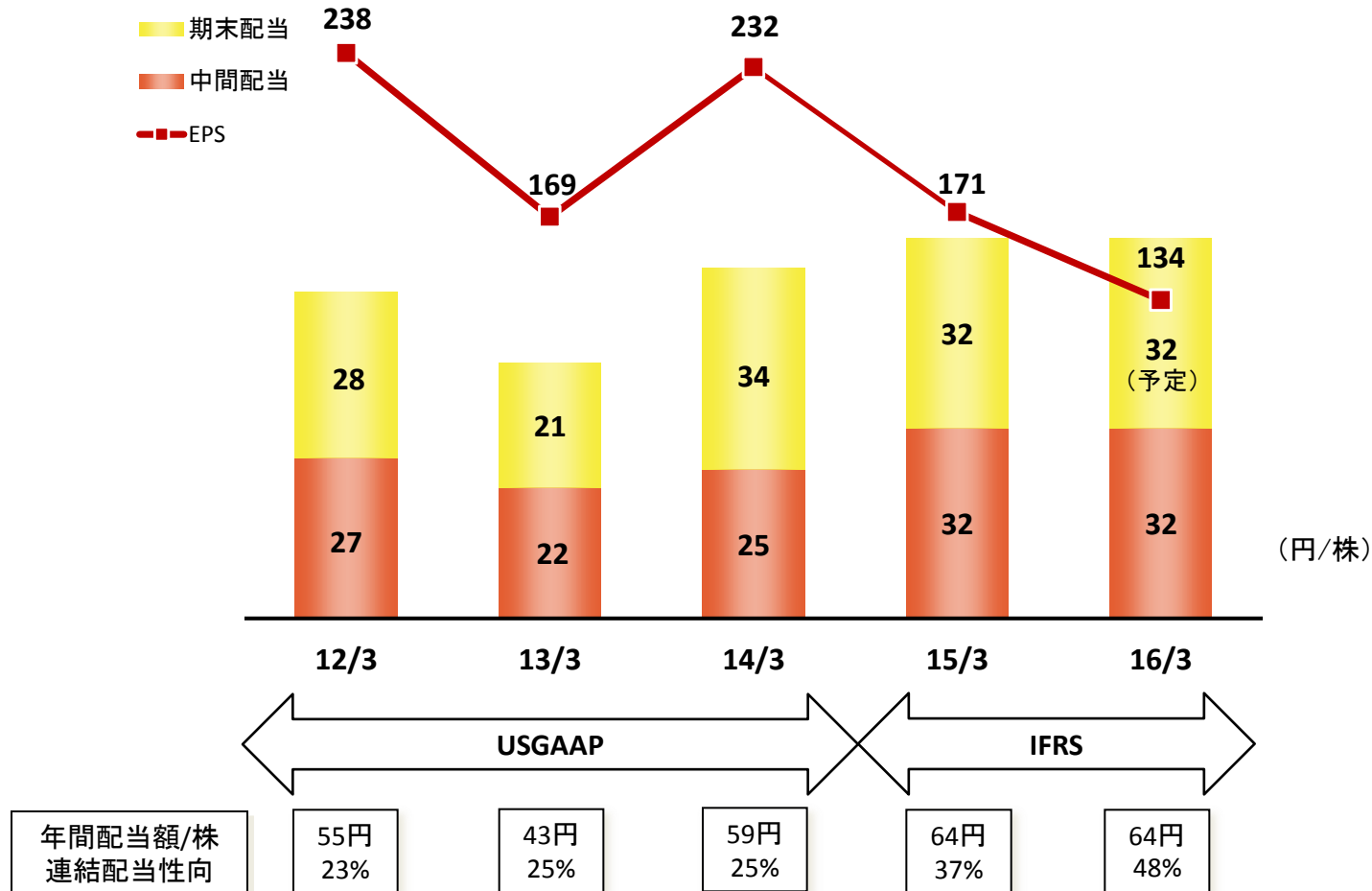
\*\* 有利子負債のカッコ内数字は、ネット有利子負債

\*\*\* 本資料では「親会社の所有者に帰属する持分」を、株主資本と表記しています。



## 2016年3月期 配当予想

- ◆ 予想年間配当金は、当期利益2,400億円を前提に、EBITDA、基礎営業キャッシュ・フロー状況並びに配当金額の安定性・継続性を総合的に勘案し、1株あたり64円を予定（前期比増減なし、連結配当性向48%）
- ◆ 中間配当金は、1株あたり32円





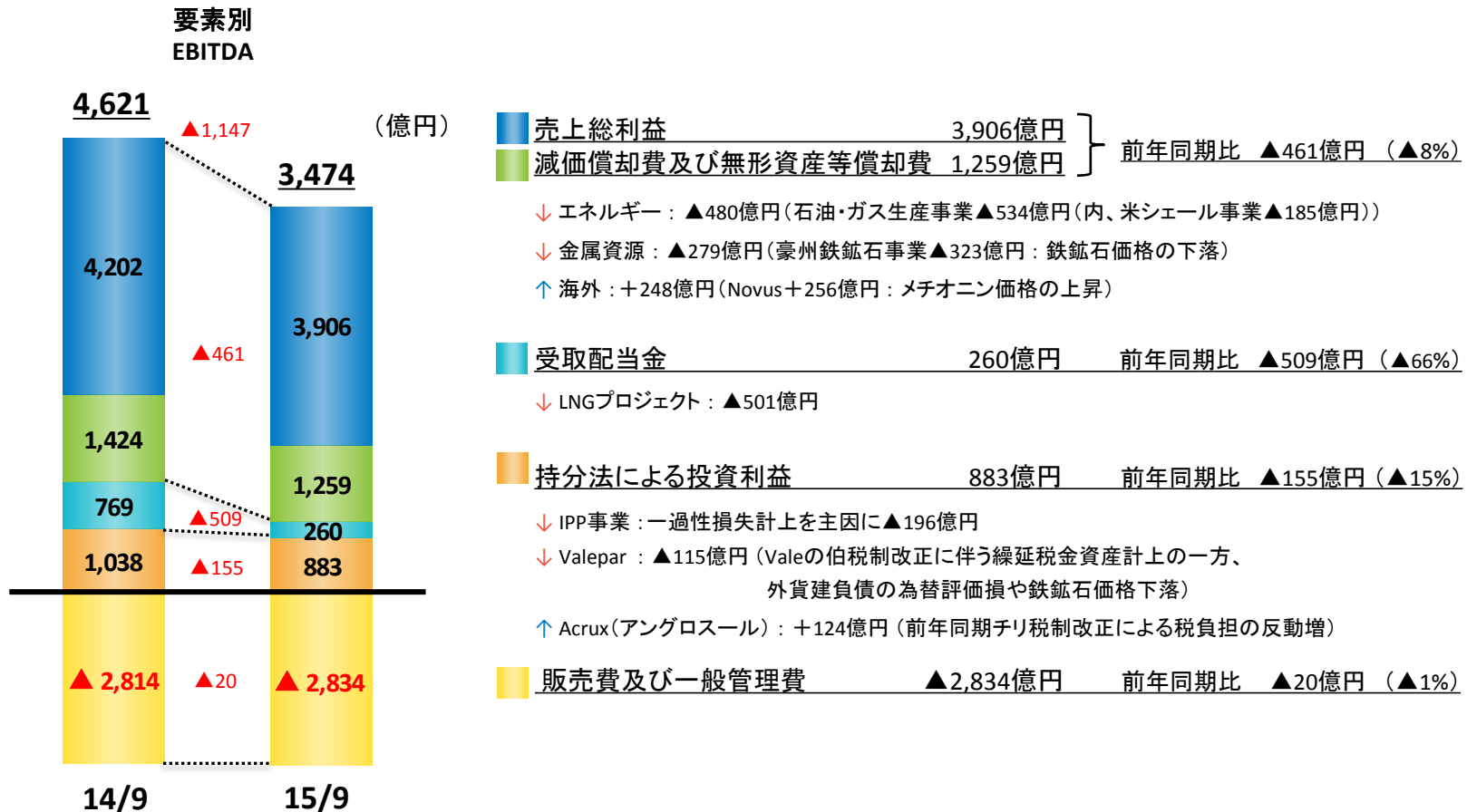
## 収益基盤の更なる強化(上半期の取り組み)

- ◆ 順調な成長の続く北米市場での収益基盤の拡大
- ◆ 化学品事業モデルの戦略的転換
- ◆ 攻め筋「食糧と農業」強化への布石(化学品、生活産業)
- ◆ 課題案件への対処と資産リサイクル
- ◆ 資源・エネルギー事業の、埋蔵量、生産量、コスト競争力の三位一体の強化

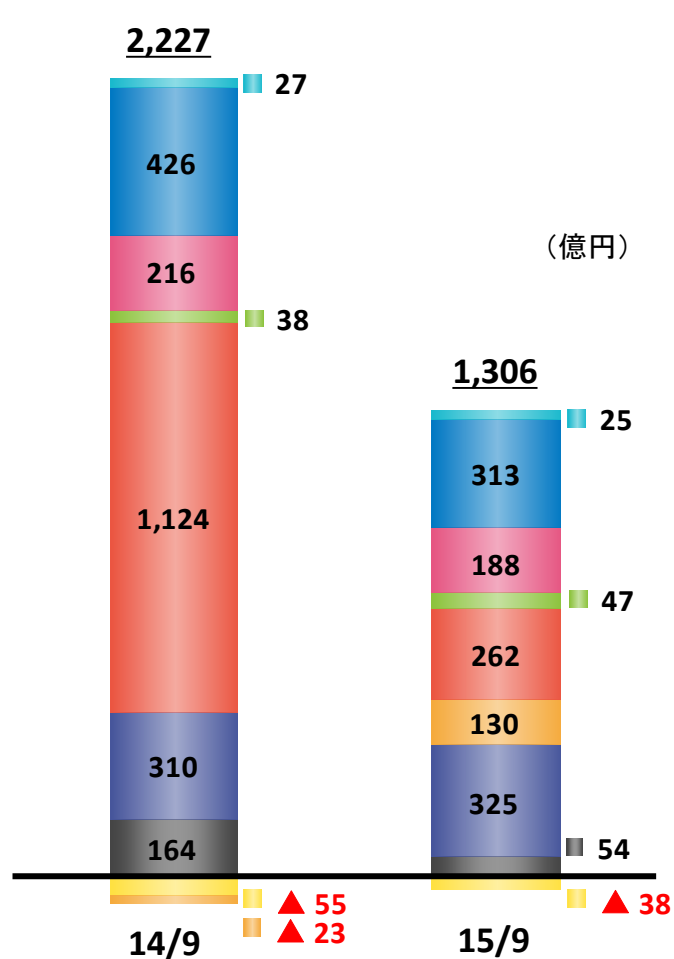
	化学品	生活産業	機械・インフラ	エネルギー	金属資源
北米	メタノール(生産開始) クロロプレナム(買収) バイオコハク酸 (生産開始) タンクターミナル(拡張) メチオニン(増設検討) 電解事業(売却合意)	非遺伝子組替穀物集荷 (出資) 植物タンパクの 食品ベンチャー(出資)	トラックリース (貢献開始)	キャメロンLNG (工事進捗)	
南米	バイオエタノール事業 (売却合意)	サーモン事業拡大 (出資合意)	ガス配給網拡充 (取得合意) VLI(貢献開始)		
豪州				ブラウズLNG (基本設計)	鉄鉱石・インフラ (拡張完了)
モザン ビーク				LNGプロジェクト (最終判断準備)	石炭・インフラ (工事進捗)

# 補足説明

## 2016年3月期上半期 EBITDAの前年同期比増減



## 2016年3月期上半期 セグメント別上半期利益の前年同期比増減



(数値は税後)

**エネルギー** 262億円 前年同期比 ▲862億円(▲77%)

- ↓ LNGプロジェクトからの受取配当金減 ▲501億円
- ↓ MEPMEは、数量増の一方、原油価格下落やコスト増により ▲104億円
- ↓ MEPUSAは、コスト減の一方、原油価格下落や数量減により ▲68億円

**金属資源** 313億円 前年同期比 ▲113億円(▲27%)

- ↓ 豪州鉄鉱石事業は、コスト減や為替変動の一方、鉄鉱石価格下落により ▲102億円\*
- ↓ Valeparは、Valeによる伯税制改正に伴う繰延税金資産計上の一方、  
外貨建負債の為替評価損や鉄鉱石価格下落により▲78億円

\*当セグメント持分

**機械・インフラ** 188億円 前年同期比 ▲28億円(▲13%)

- ↓ IPP事業 一過性損失
- ↑ 東京国際エアカーゴターミナル(TIACT) 減損戻入+118億円

**次世代・機能推進** 130億円 前年同期比 +153億円(ー)

- ↑ Hutchison China MediTech株式の公正価値評価益 +90億円
- ↑ 中国動画配信事業売却に伴い+17億円
- ↑ トライネット・ロジスティクスは、倉庫売却を主因に+12億円

**生活産業** ▲38億円 前年同期比 +17億円(ー)

- ↑ 三井物産都市開発は、国内不動産売却を主因に+77億円
- ↑ 前年同期一過性の反動増や医療関連・加工油脂・プロイラー事業の好調等
- ↓ Multigrainは、暖簾減損や税金関連費用により▲125億円

**鉄鋼製品** 25億円 前年同期比 ▲2億円(▲7%)

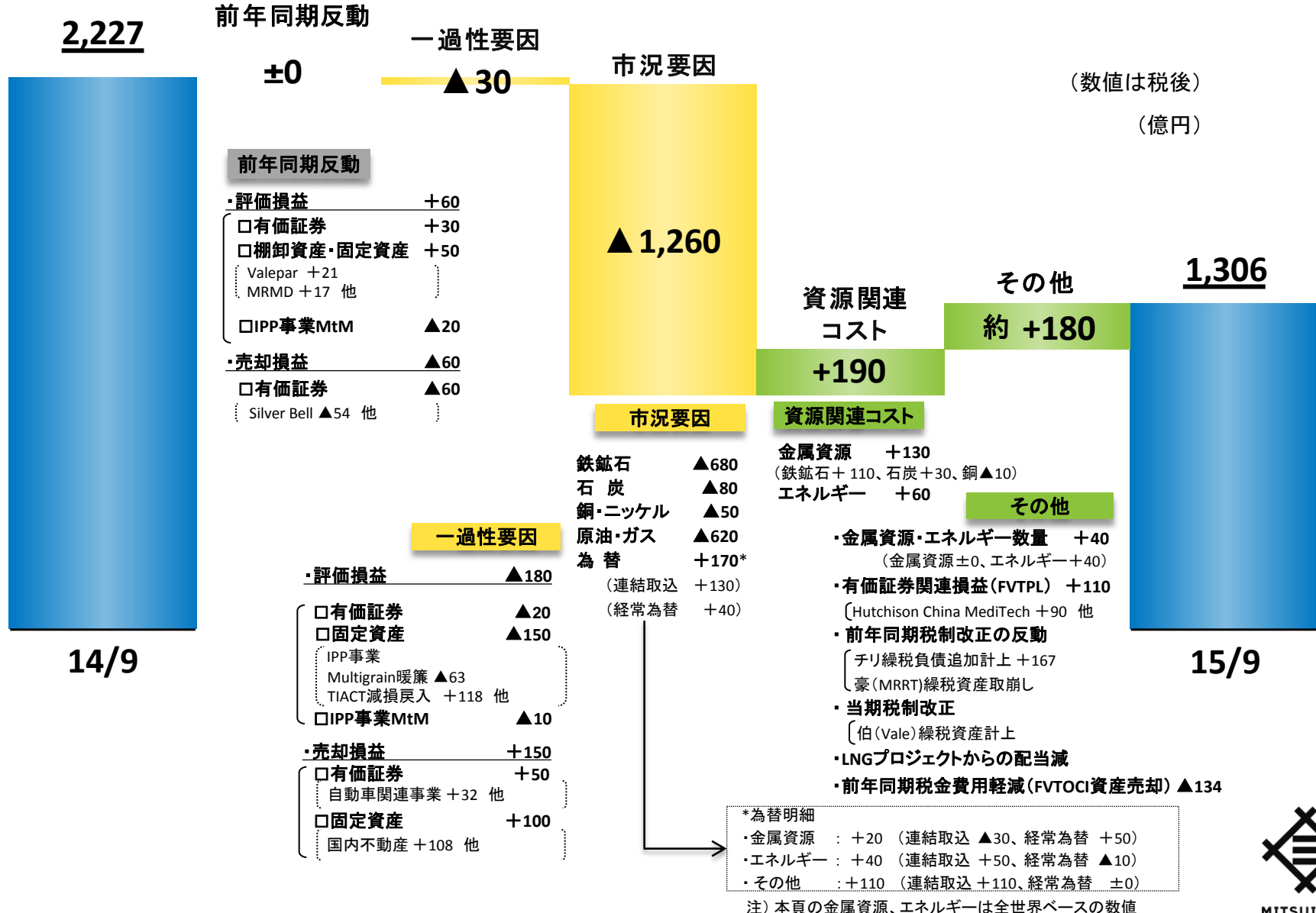
**海外** 325億円 前年同期比 +15億円(+5%)

**化学品** 47億円 前年同期比 +9億円(+24%)

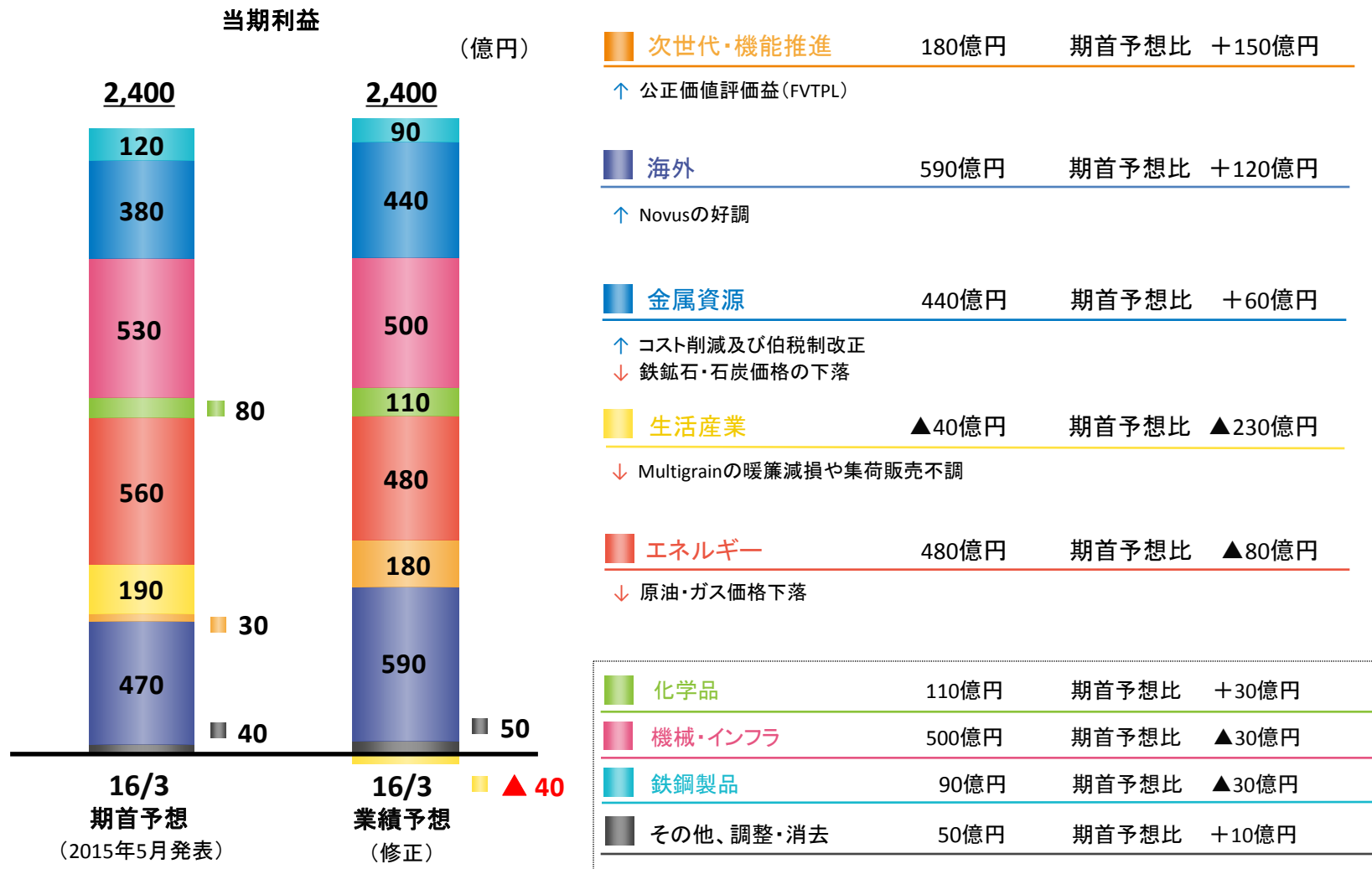
**その他、調整・消去** 54億円 前年同期比 ▲110億円(▲67%)

- ↓ 前年同期税金費用軽減(FVTOCI資産売却)の反動 ▲134億円

## 2016年3月期上半期 前年同期比 増減要素



## 2016年3月期 セグメント別業績予想(修正)



# Appendix

---

## 2016年3月期 連結業績予想における前提条件及び感応度

価格変動の16/3期当期利益への影響額 (2015年5月公表)			16/3期首予想 (2015年5月公表)	16/3 上半期 (実績)	16/3 下半期 (前提)	16/3通期予想 (上・下平均値) (2015年11月公表)
市況商品	原油/JCC	27 億円 (US\$1/バレル)	63	58.96	56	57
	連結油価 (*1)		63	60	57	58
	米国ガス(*2)	8 億円 (US\$0.1/mmBtu)	3.65	2.78(*3)	3.00(*4)	2.89
	鉄鉱石	30 億円 (US\$1/トン)	(*5)	53(*6)	(*5)	(*5)
	銅	10 億円 (US\$100/トン)	6,000	5,934(*7)	5,700	5,817
為替 (*8)	米ドル	18 億円 (\1/米ドル)	120.00	121.73	120.00	120.86
	豪ドル	8 億円 (\1/豪ドル)	95.00	90.90	85.00	87.95
	伯リアル	3 億円 (\1/伯リアル)	40.00	36.46	30.00	33.23

(\*1) 原油価格は0~6ヶ月遅れで当社連結業績に反映されるため、この期ずれを考慮した連結業績に反映される原油価格を連結油価として推計している。16/3期には34%が4~6ヵ月遅れで、38%が1~3ヵ月遅れで、28%が遅れ無しで反映されると想定される。

(\*2) 当社が米国で取り扱う天然ガスはその多くがHenry Hub (HH)に連動しない為、上記感応度はHH価格の変動に対する感応度ではなく、加重平均ガス販売価格に対する感応度。

(\*3) 米国ガスの16/3期上半期実績欄には、2015年1月~6月のNYMEXにて取引されるHenry Hub Natural Gas Futuresの直近限月終値のdaily平均値を記載。

(\*4) HH連動の販売価格は、HH価格US\$3.00/mmBtuを前提として使用している。

(\*5) 鉄鉱石の前提価格は非開示。

(\*6) 鉄鉱石の16/3期上半期実績欄には、2015年4月~9月の複数業界紙によるスポット価格指標Fe 62% CFR North Chinaのdaily平均値(参考値)を記載。

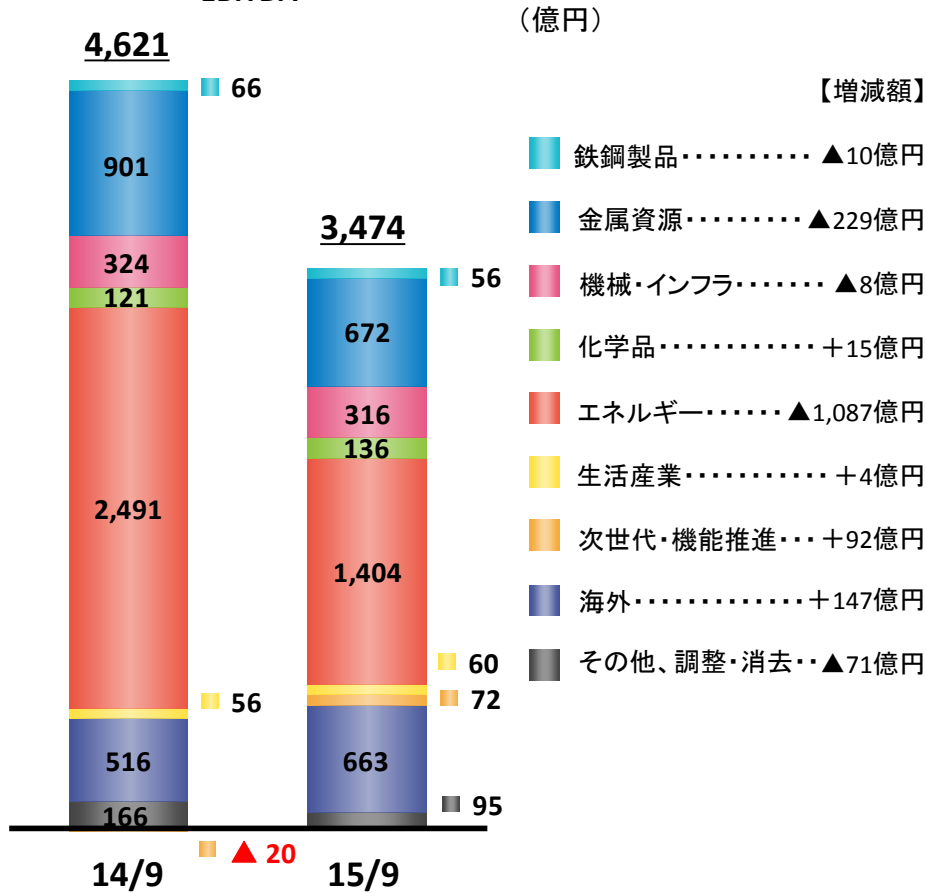
(\*7) 銅の16/3期上半期実績欄には、2015年1月~6月のLME cash settlement priceのmonthly averageの平均値を記載。

(\*8) 各国所在の関係会社が報告する機能通貨建て当期利益に対する感応度。円安は機能通貨建て当期利益の円貨換算を通じて増益要因となる。金属資源・エネルギー生産事業における販売契約上の通貨である米ドルと機能通貨の豪ドル・伯リアルの為替変動、及び為替ヘッジによる影響を含まない。

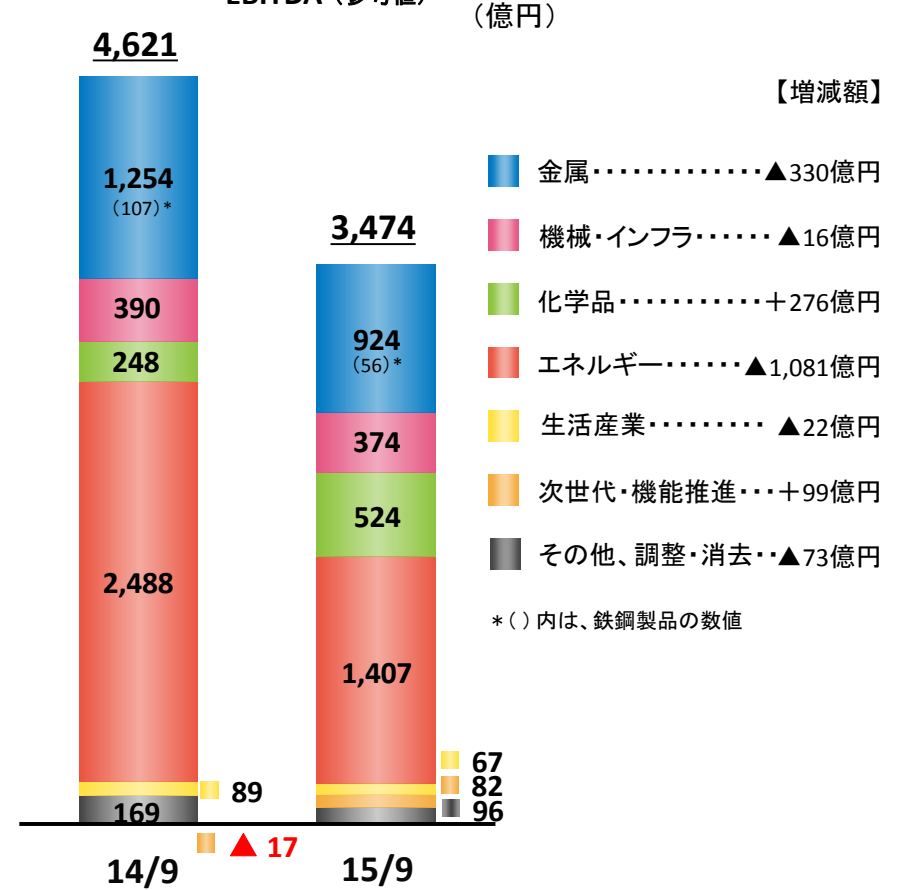


# 2016年3月期上半期 EBITDA 前年同期比増減

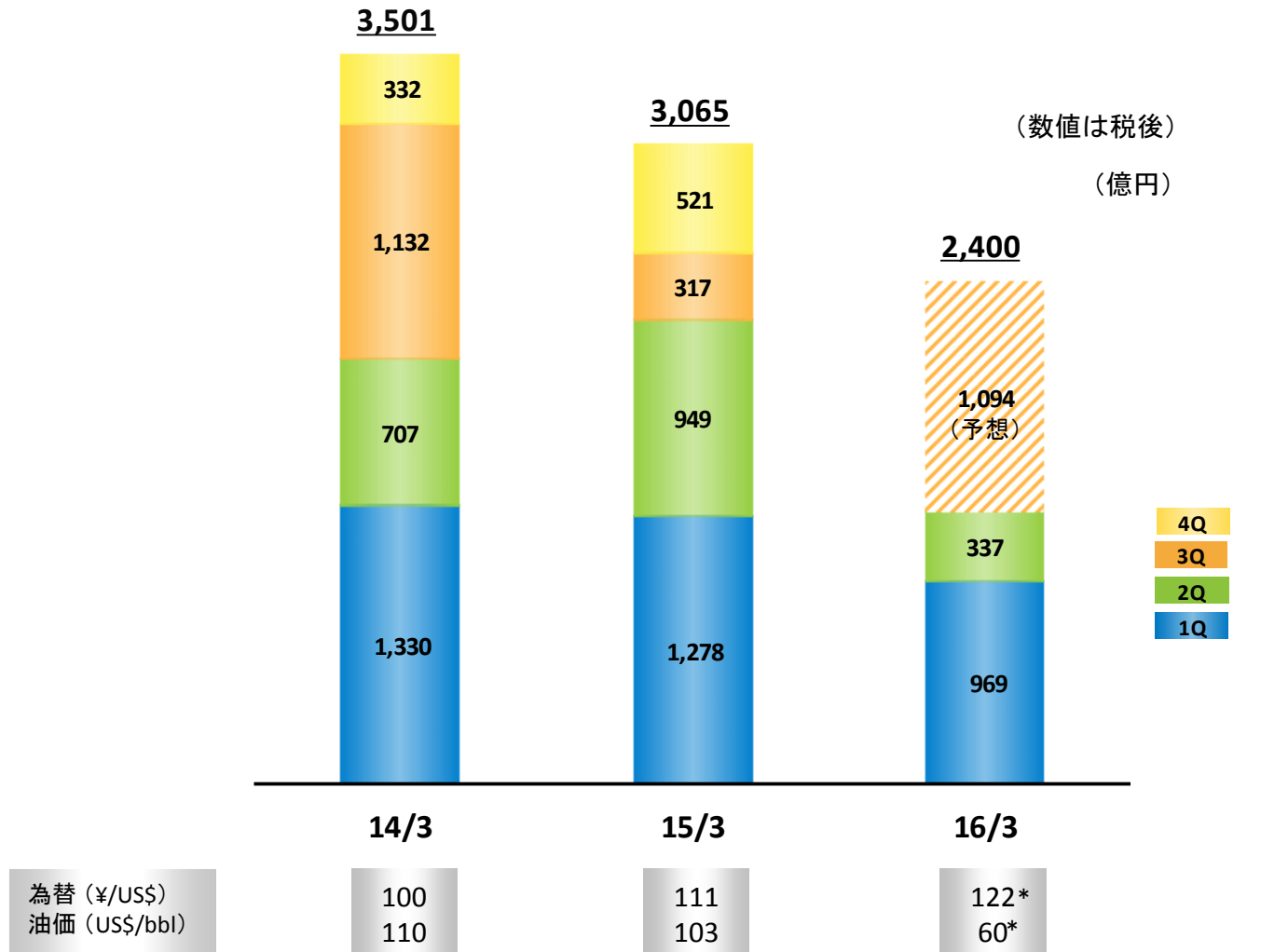
セグメント別 EBITDA



事業分野別(全世界ベース) EBITDA (参考値)



# 四半期利益の推移



## 中国向け鉄鉱石スポット価格推移 (参考値\*)



\* 業界紙複数社によるスポット指標平均

## 当社持分権益出荷量実績

	15/3期 1Q	15/3期 2Q	15/3期 3Q	15/3期 4Q	15/3期 累計	16/3期 1Q	16/3期 2Q	16/3期 累計
鉄鉱石 (百万トン)	13.2	13.8	13.9	13.9	54.8	13.4	14.3	27.7
MIOD	7.9	8.0	8.1	7.4	31.4	7.5	7.9	15.4
MII	1.9	1.9	1.9	2.0	7.7	2.2	2.3	4.5
Vale*	3.4	3.8	3.9	4.5	15.6	3.7	4.2	7.9
石炭 (百万トン)**	2.9	3.2	3.4	3.0	12.6***	3.2	3.3	6.5
MCH	2.3	2.5	2.3	2.3	9.4	2.7	2.9	5.6
BMC*	0.4	0.4	0.5	0.4	1.7	0.4	0.5	0.9
原料炭	2.1	2.0	2.0	1.9	8.0	2.1	2.4	4.5
一般炭	0.6	0.9	1.0	0.8	3.1	1.0	1.0	2.0
銅 (千トン)*/**	29.1	25.7	26.2	27.0	108.1	25.4	28.3	53.7

\* Vale、BMC及び銅は1Q:1-3月、2Q:4-6月、3Q:7-9月、4Q:10-12月の実績

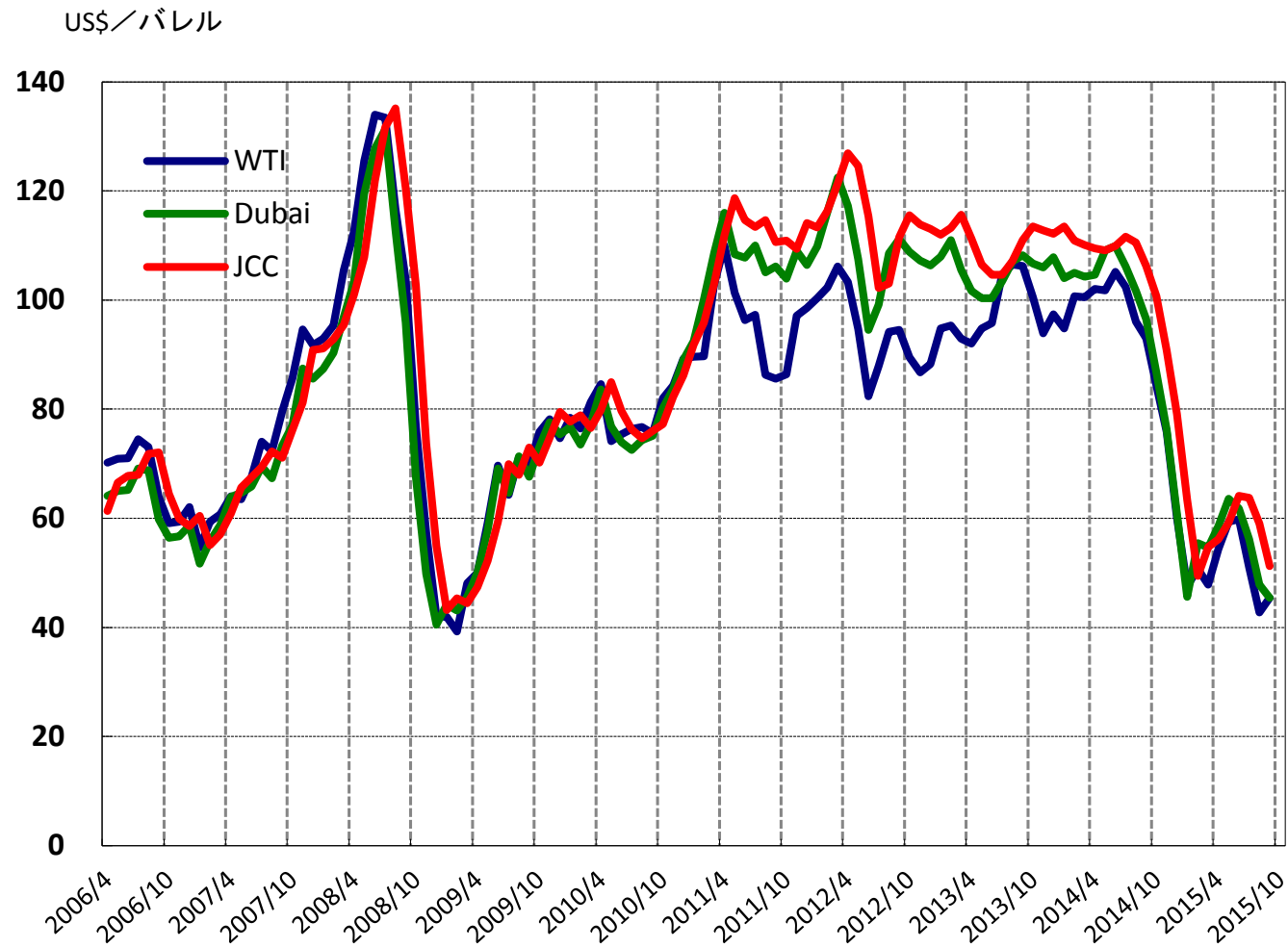
\*\* Vale出荷分の5%を含む。

\*\*\* 2015年8月修正(12.3→12.6)

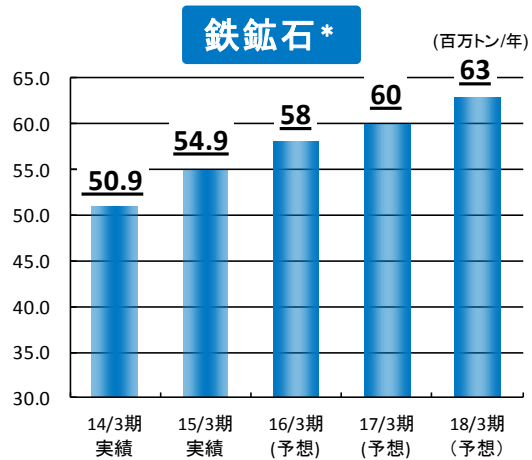
※四捨五入により合計が合わない箇所があります。



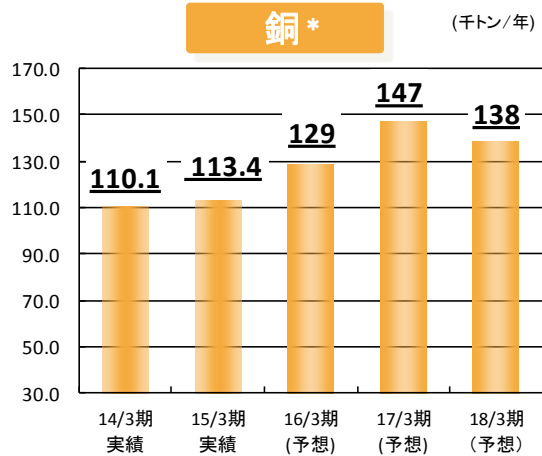
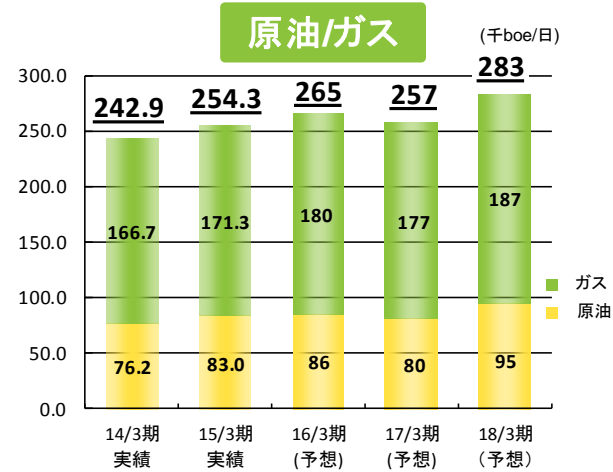
## 原油価格推移



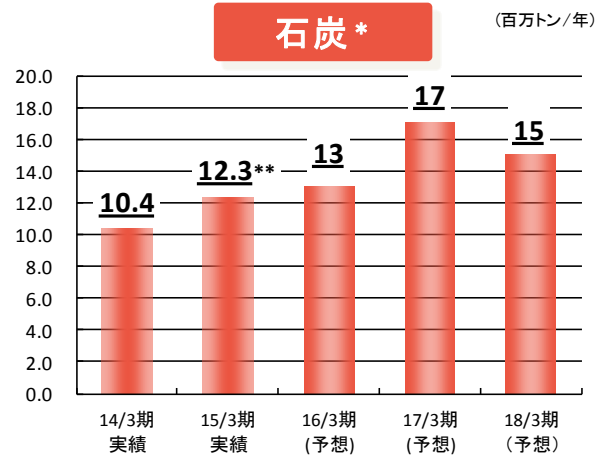
# 当社持分権益生産量 (2015年5月公表)



\* ヴァーレ社生産分の5%を含む



\* ヴァーレ社生産分の5%を含む

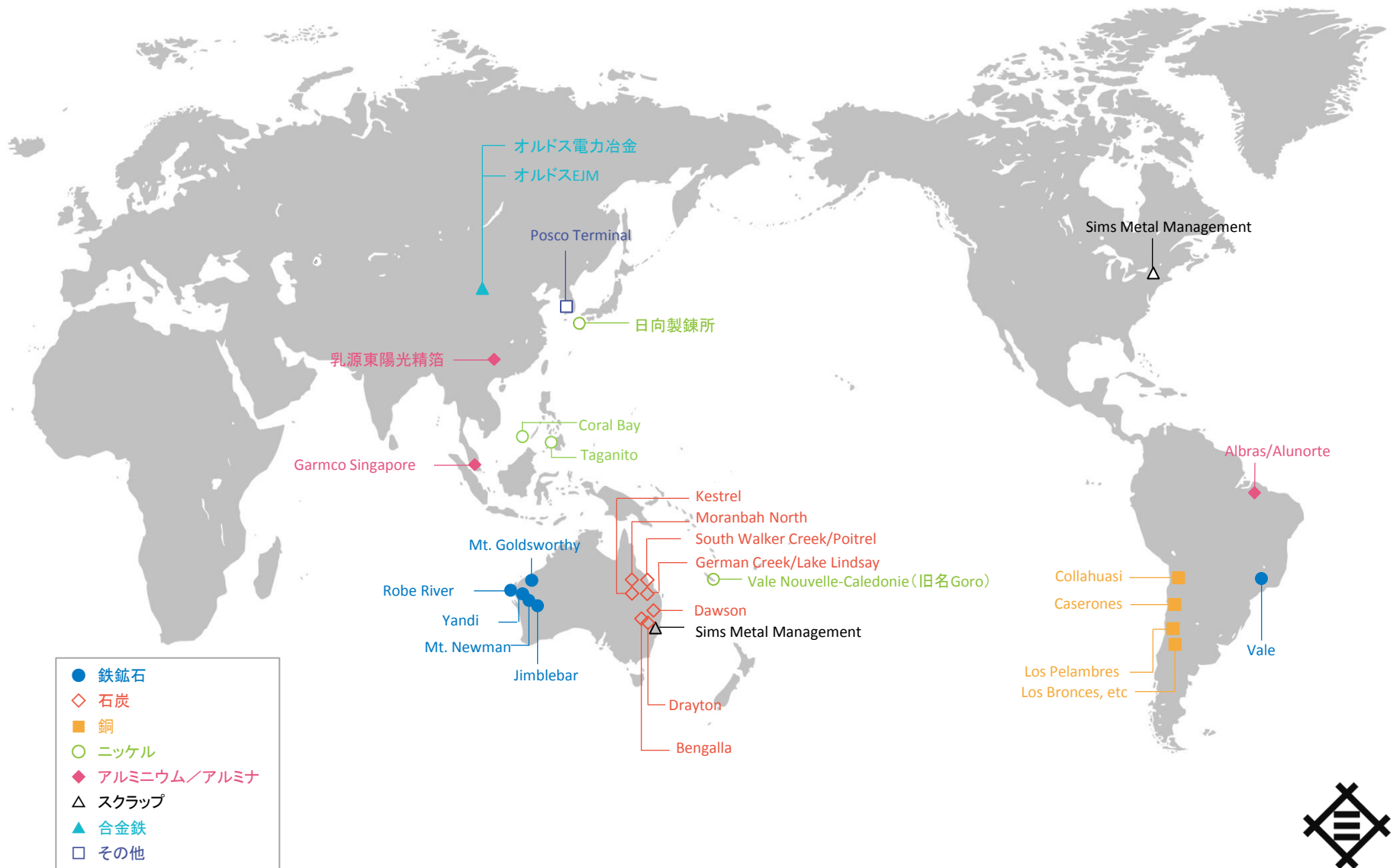


\* 2015年3月期からヴァーレ社生産分の5%を含む

\*\* 2015年8月修正(12.9→12.3)

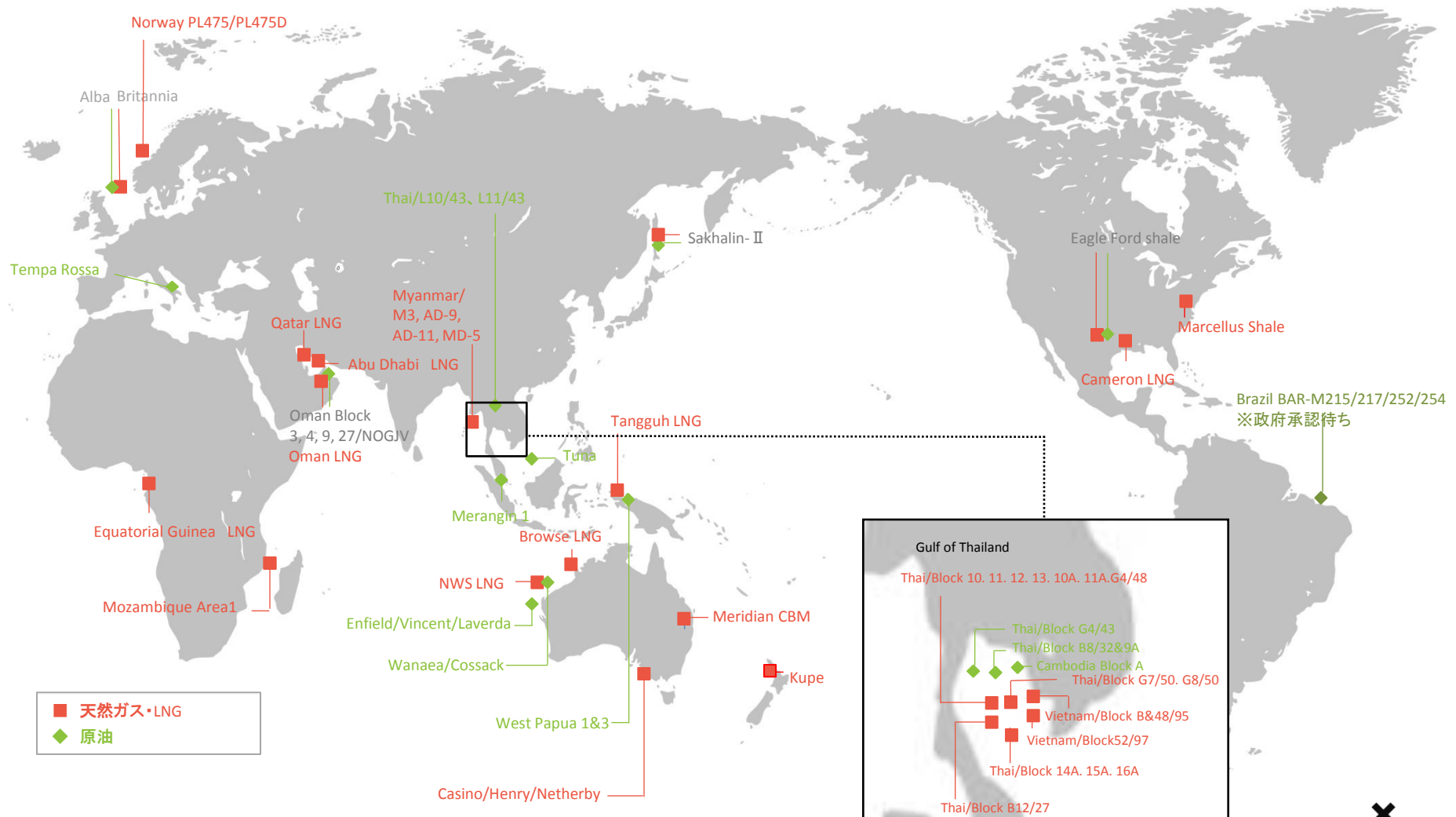
# 金属資源の主なプロジェクト

2015年9月末現在



# エネルギーの主な上・中流権益

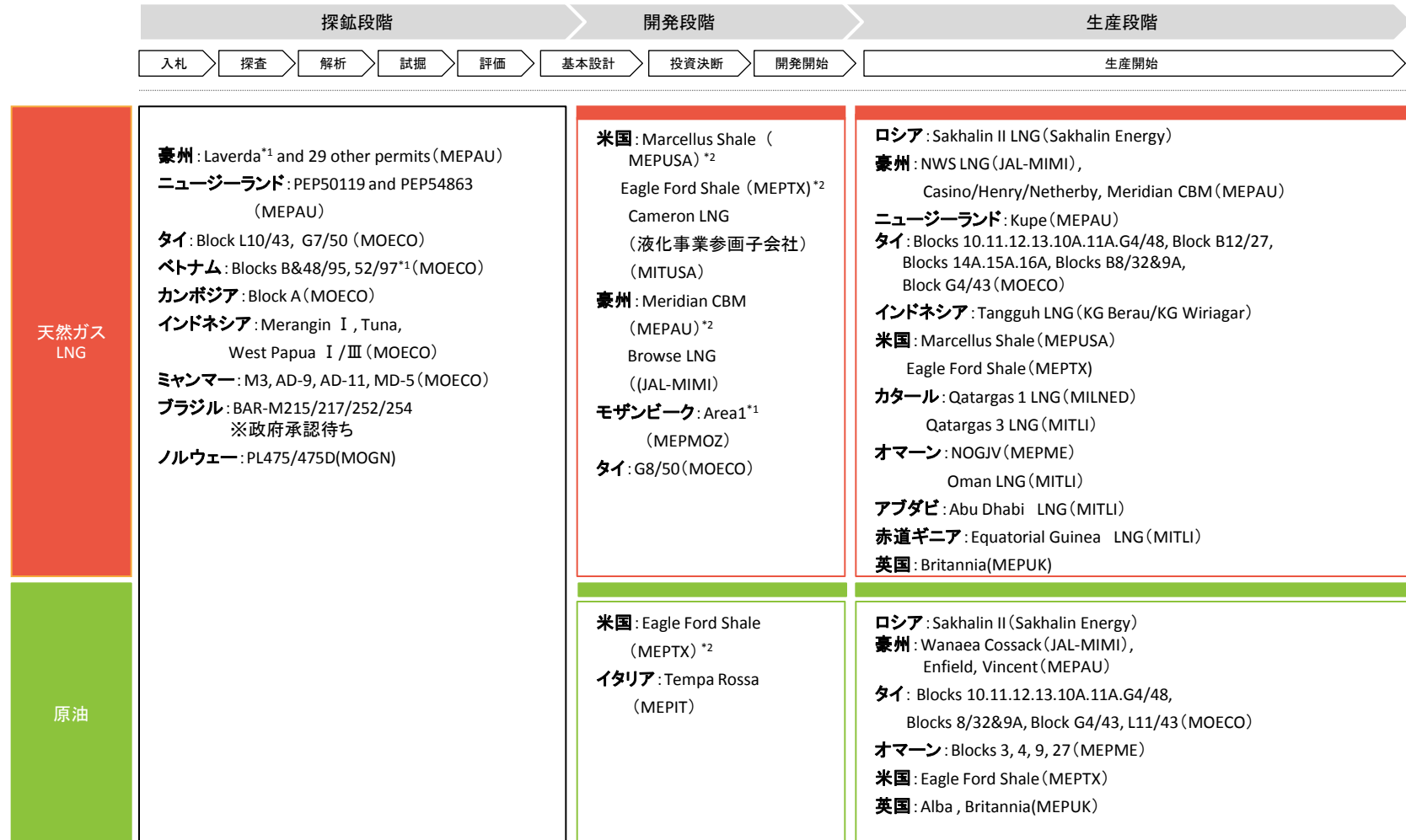
2015年9月末現在





## 原油・ガスの主な上・中流権益

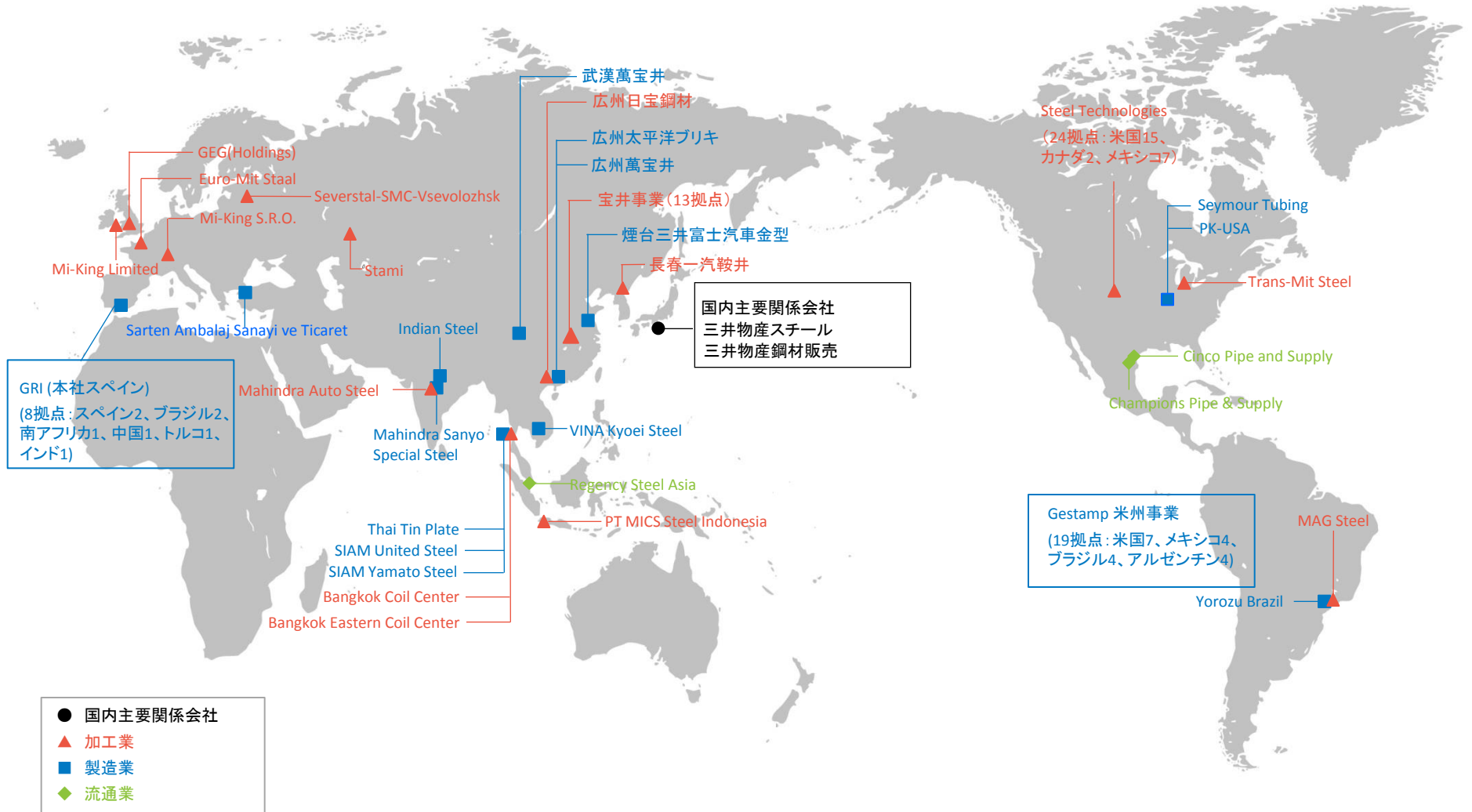
2015年9月末現在



\*1 既発見未開発鉱区 \*2 一部生産段階移行済

# 鉄鋼製品の主な事業投資

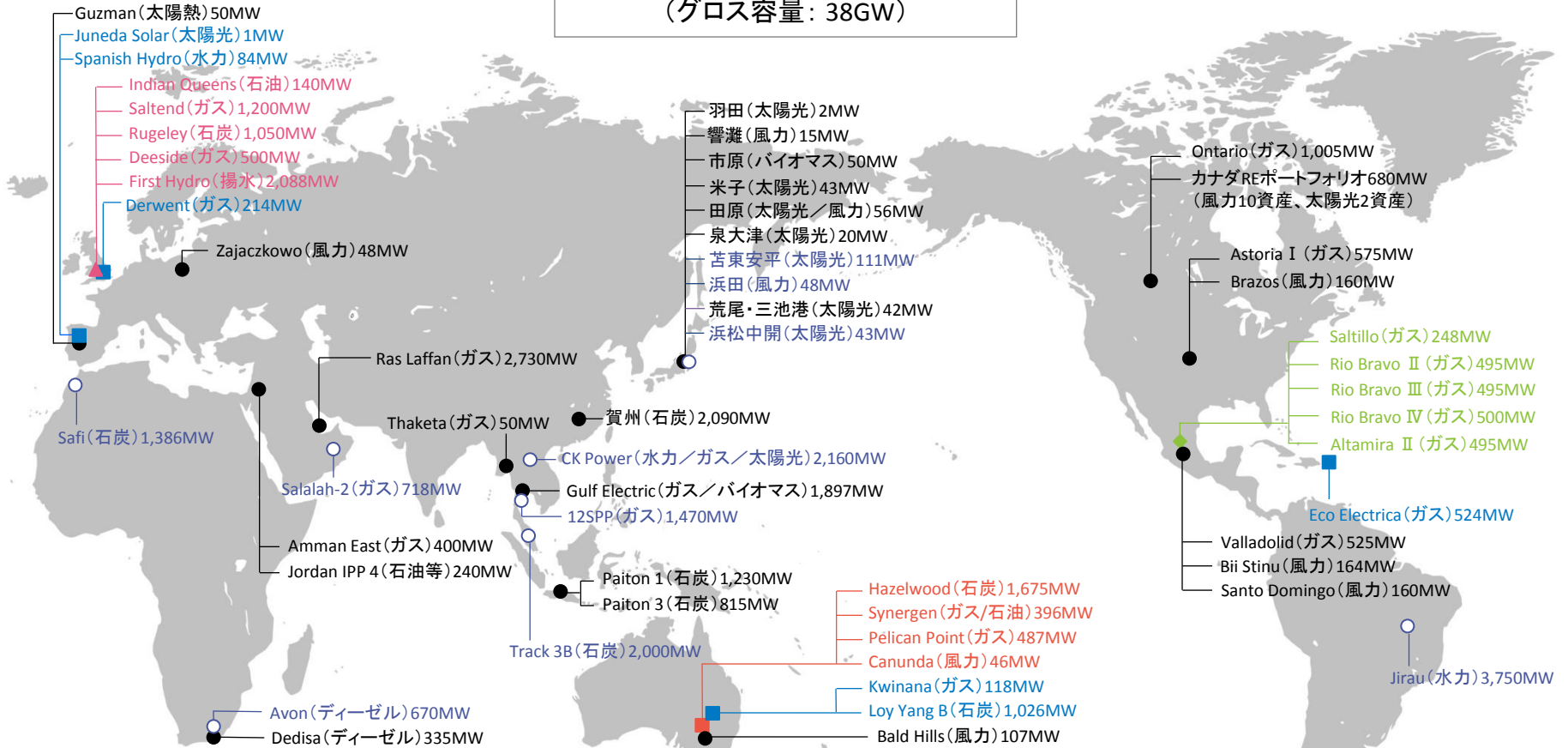
2015年9月末現在



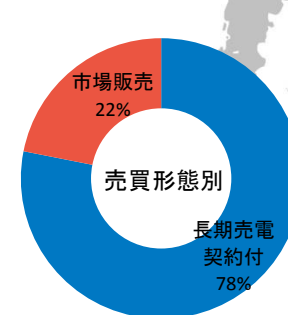
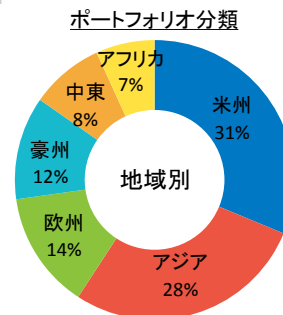
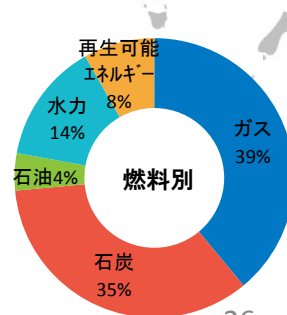
# 発電事業ポートフォリオ

2015年9月末現在

当社持分発電容量(ネット): 9.8GW  
(グロス容量: 38GW)

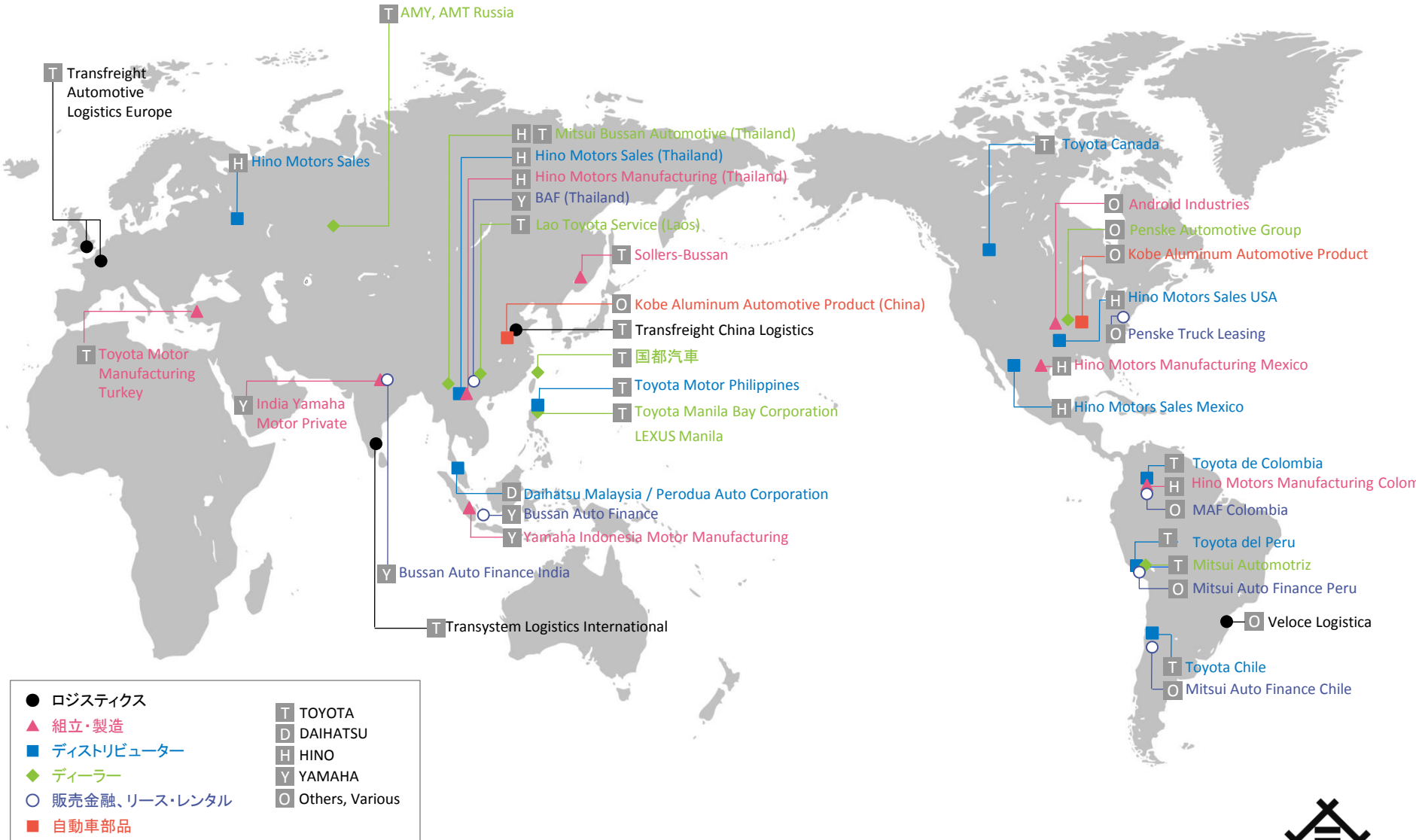


- ▲ IPM (UK) Power社保有資産
- IPM Eagle社保有資産
- ◆ MT Falcon保有資産
- IPAH保有資産
- その他
- 建設中発電所



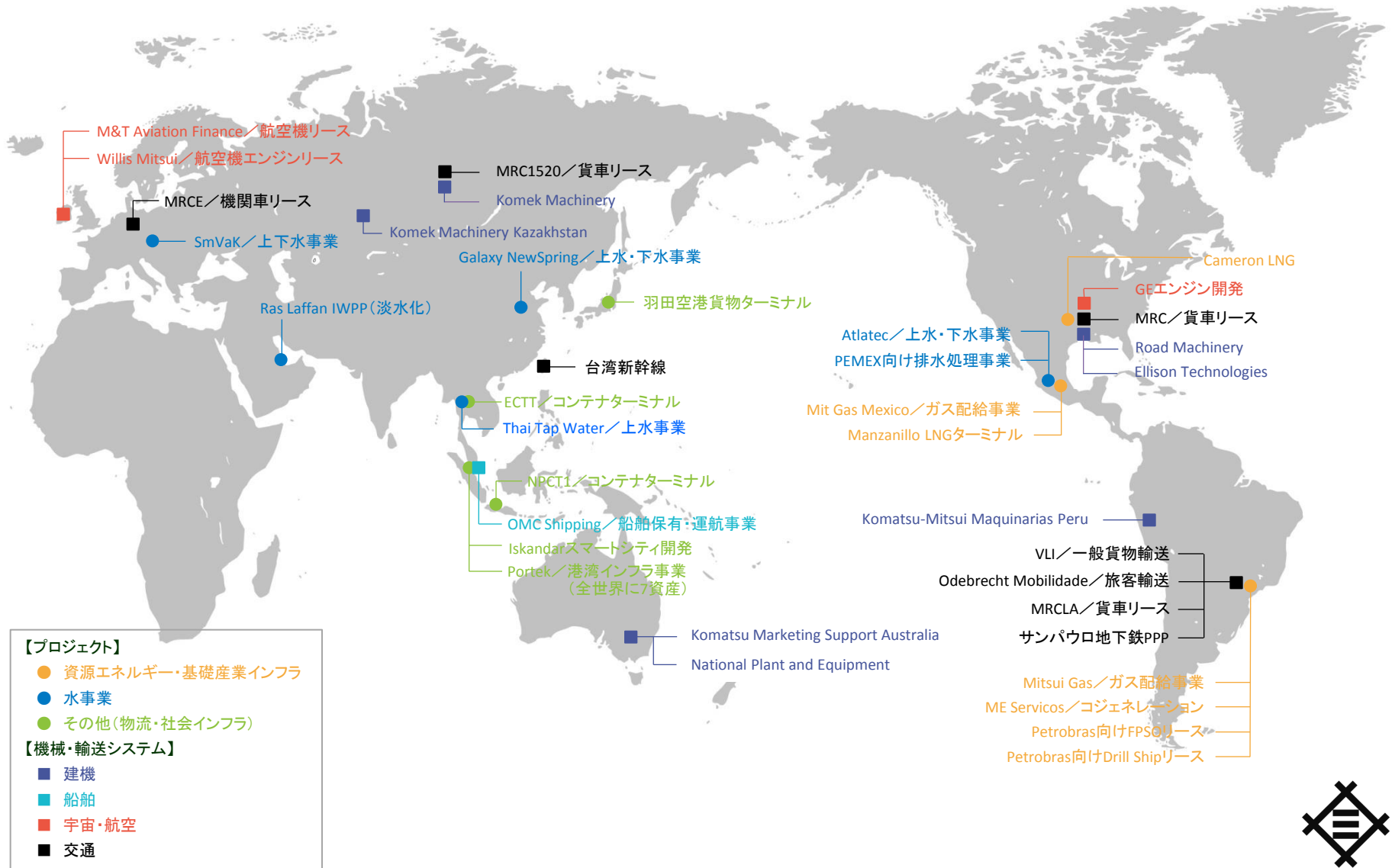
# 自動車事業ポートフォリオ

2015年9月末現在



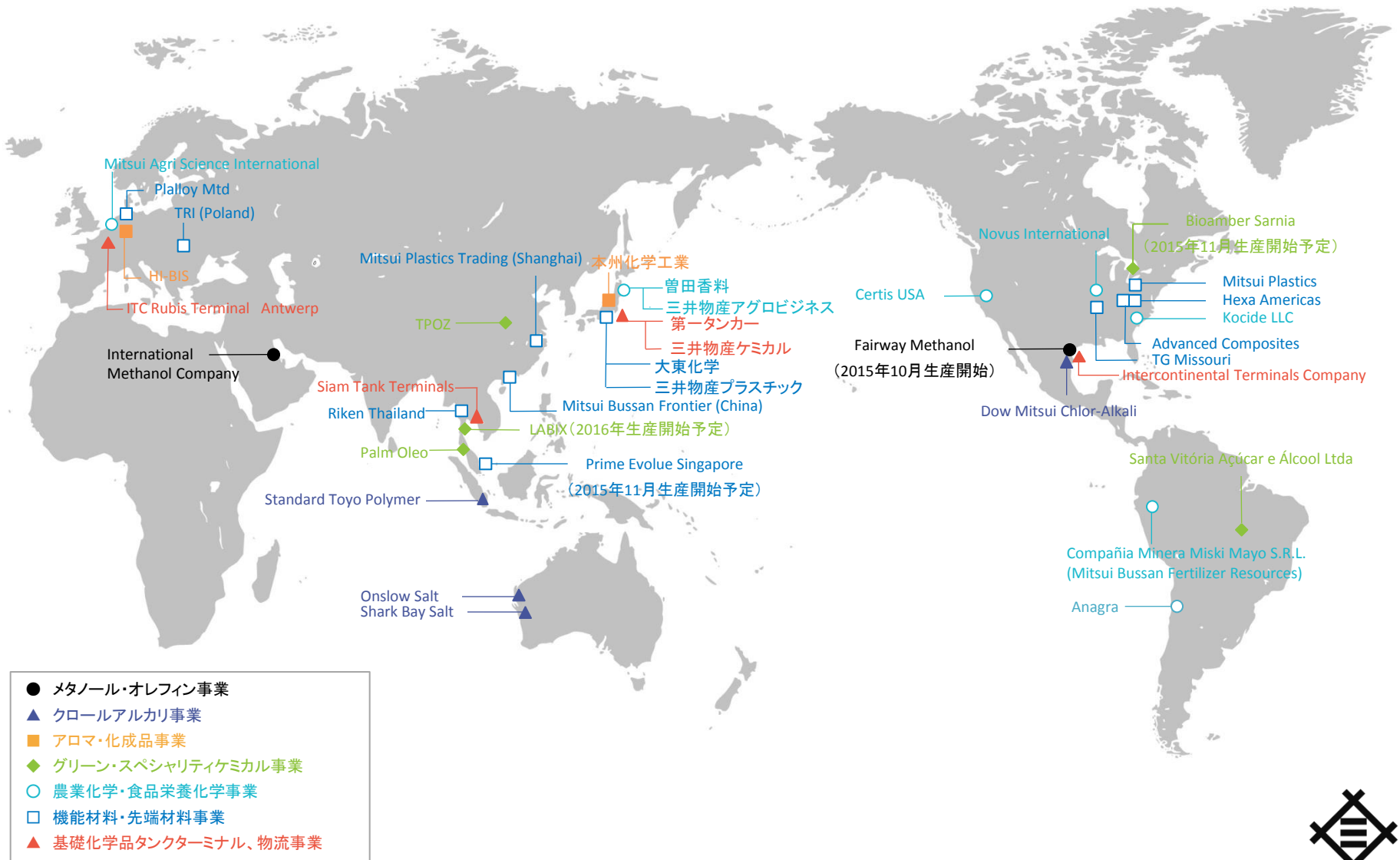
## その他の主な機械・インフラ事業

2015年9月末現在



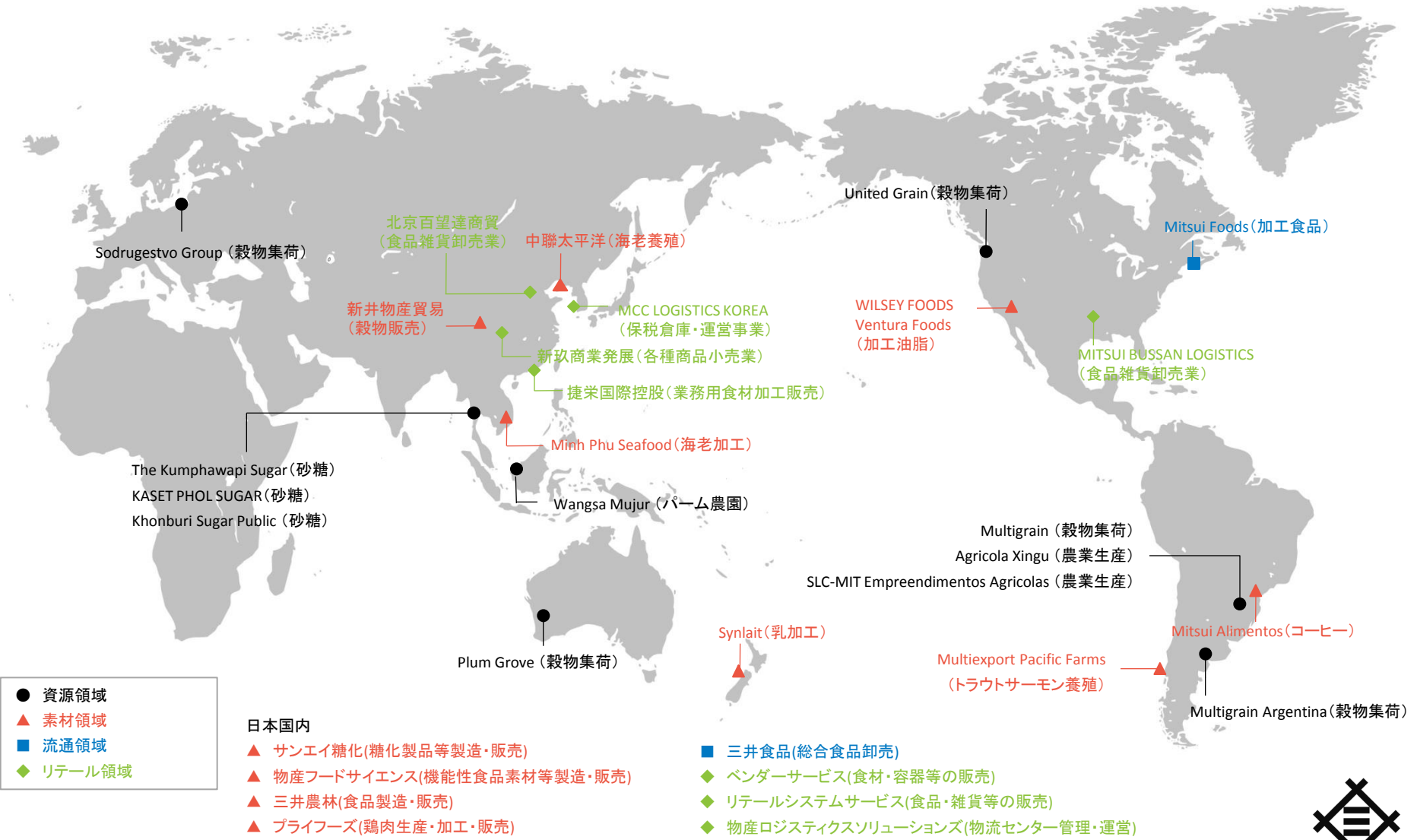
# 化学品の主な事業投資

2015年9月末現在



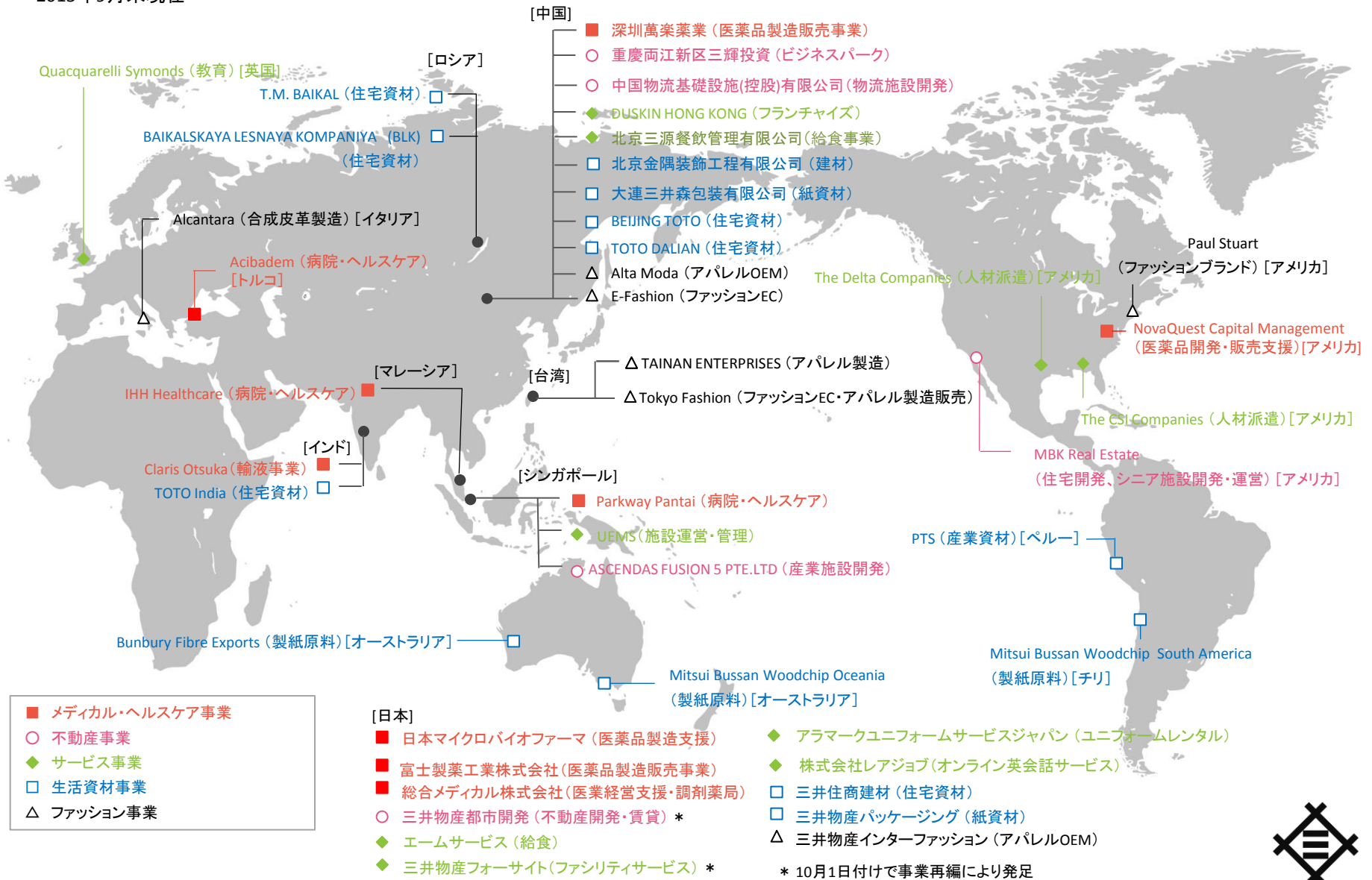
# 食糧・食品事業の主な事業投資

2015年9月末現在



# コンシューマーサービスの主な事業投資

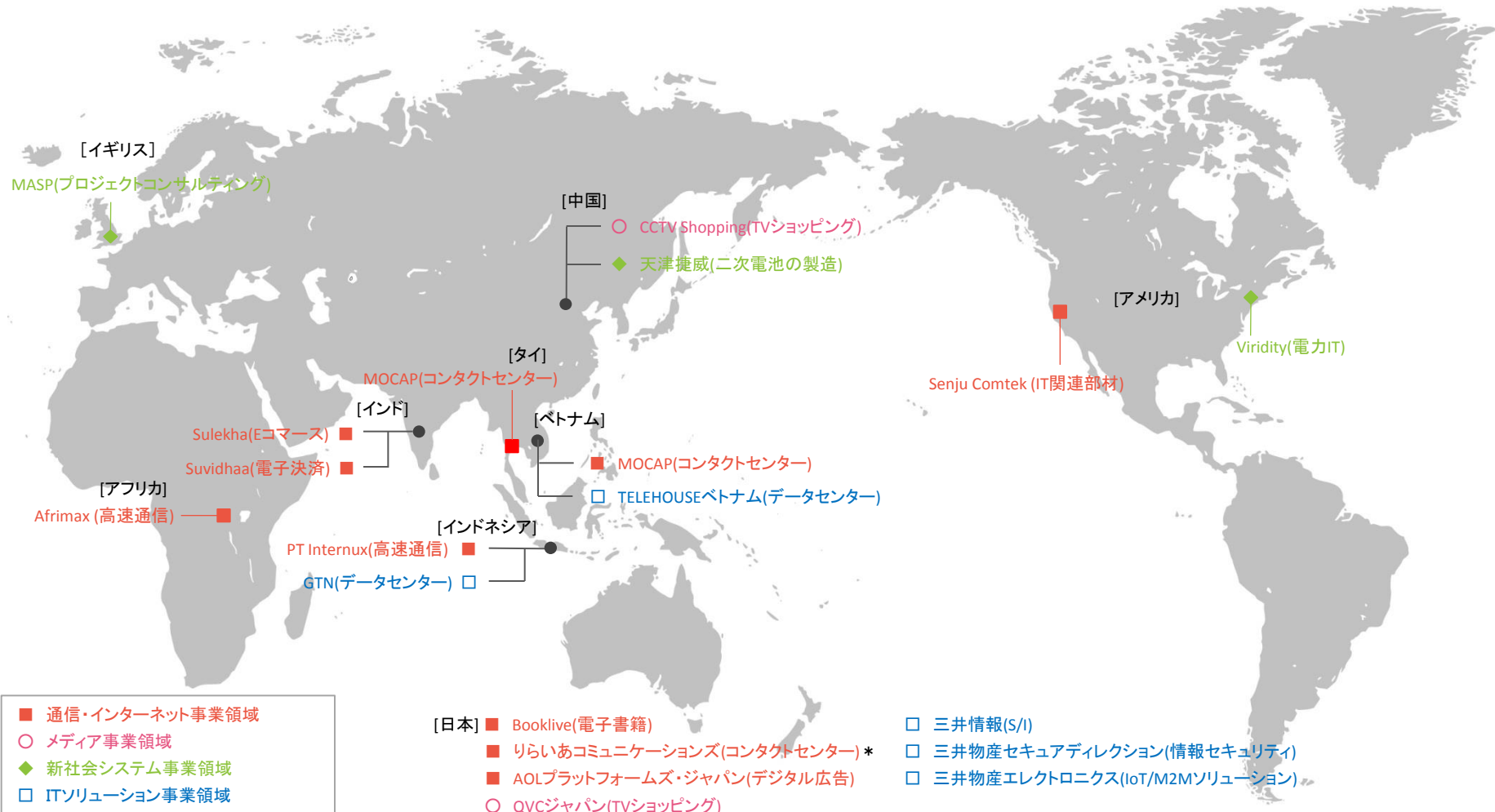
2015年9月末現在





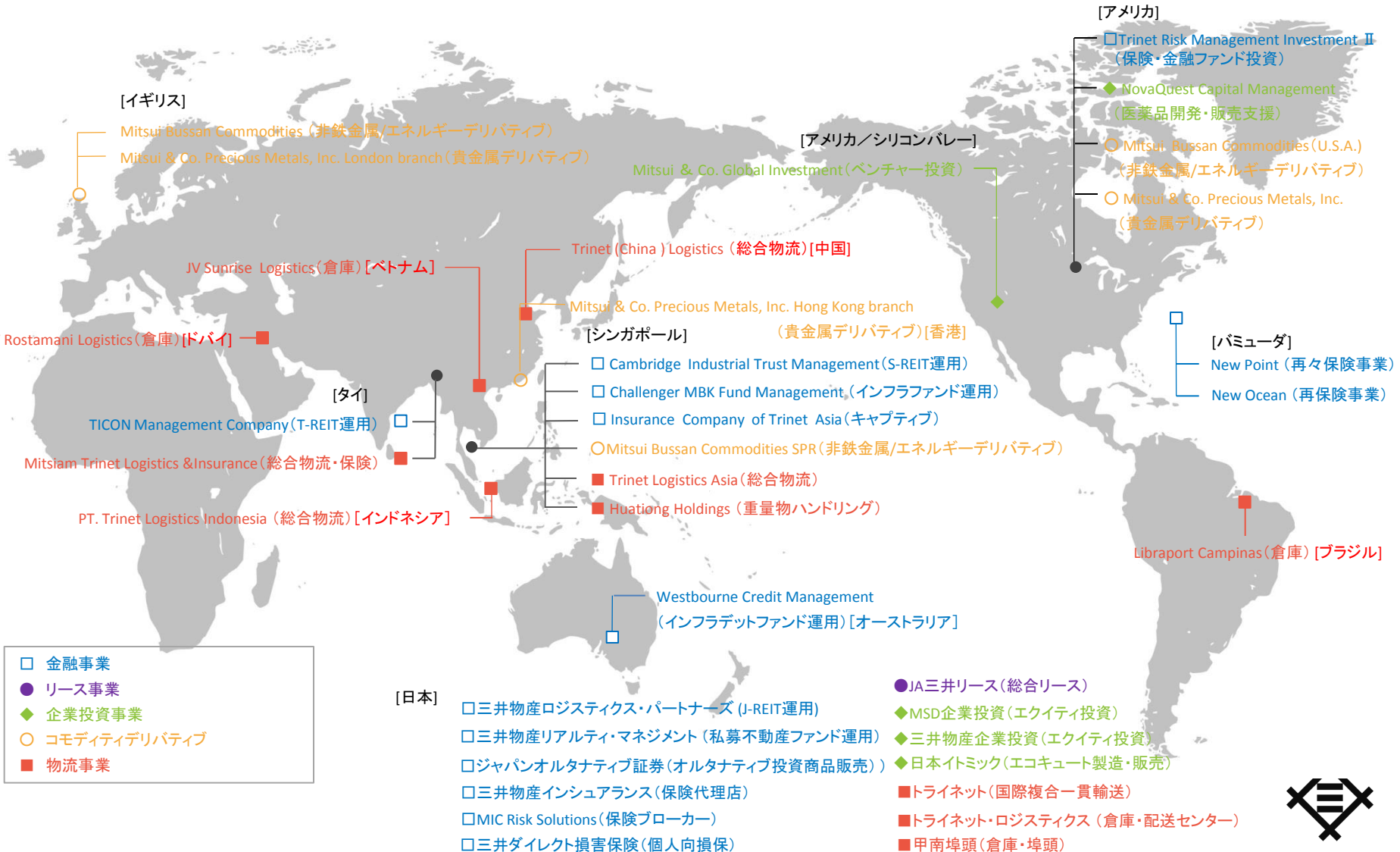
# ICT事業の主な事業投資

2015年9月末現在



# コーポレートディベロップメントの主な事業投資

2015年9月末現在



- 金融事業
- リース事業
- ◆ 企業投資事業
- コモディティデリバティブ
- 物流事業



360° business innovation.



MITSUI & CO.